

丹後織物工業組合 産業振興プラン

(2022~2027 第1次5ヵ年計画)

THE
SILK
IN TANGO
KYOTO JAPAN

SINCE 711
〜

～次代へ、新たな挑戦～
「誇りを持ち、織物と共に生きる地域の創出」



丹後織物工業組合

1. 現状と課題

1. 現状と課題 ～丹後地域の有する強み～

1

自然資源・歴史資源など豊富な観光素材

- ・自然環境に恵まれ（山陰海岸ジオパーク等）、海の幸、山の幸、温泉資源や海水浴場など、豊富な観光資源に恵まれている。

2

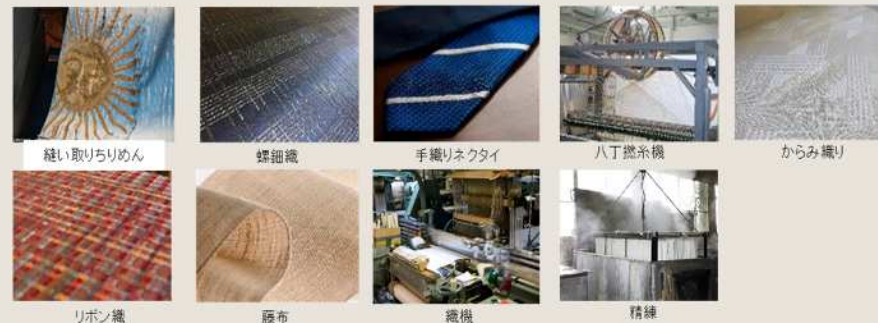
日本遺産「丹後ちりめん回廊」など魅力的な文化コンテンツ

- ・2017年には、「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」が日本遺産に認定され、歴史的文化的なコンテンツを積極的に世界に情報発信している。

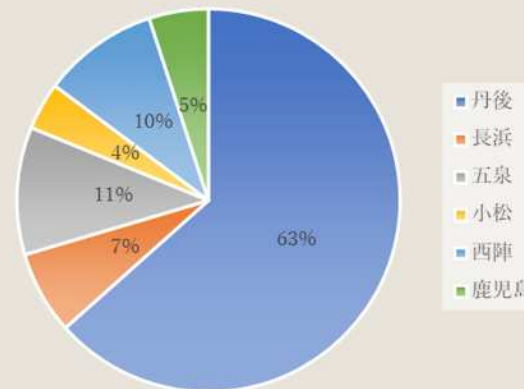
3

日本一の絹織物産地 ／世界に誇る織物の技術

- ・丹後は日本一の絹織物産地であり、きもの後染用生地（表地）の生産量は全国7割に上り、西陣の帯など先染織物の製造では生産量の大半を担う。
- ・生糸はもとより、ポリエステルやレーヨンなど化学繊維を使用した和装小物、洋服生地、インテリア生地などの分野でも、多種多様な技術は高く評価されている。



主要絹織物産地生産シェア（2020年）



300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊が日本遺産に認定



日本三景に数えられる天橋立、ジオパーク



1. 現状と課題

～丹後地域の抱える弱み～

1

急速に進展する少子高齢化、過疎化

- ・人口減少と少子高齢化が急速に進んでおり、1985年の7.1万人が30年間で2割減少し、2015年には約5.6万人
- ・産業従事者の高齢化も進んでおり、2018年の従事者平均年齢は68.7歳。

2

国土軸から乖離 / 日本海連携に期待

- ・京都府最北端に位置し、第1国土軸である太平洋ベルト地帯から離れている。今後の日本海連携に期待。

3

繊維産業に係る生産基盤の弱体化

- ・昭和の時代に導入された設備が中心であり、経年劣化による故障が増加、作業効率や品質安定の阻害要因となっている。故障部品の調達が年々厳しくなるなか、生産能力も年々も年々低下している。

4

競争力ある商品の不足 / 外国人観光客へのアピール不足

- ・生産拠点に特化した発展過程から、商品の企画販売は他地域に依存しており、市場を意識した商品開発力が弱い。
- ・また、急増する外国人観光客に対して、地域の魅力を十分にアピール出来ていない。



丹後地域の製造業・繊維工業の推移 (全事業所)



出典：工業統計、経済センサス

1. 現状と課題

～今後訪れる機会～

1 来日外国人客の拡大と日本ブームの再来

- ・訪日外国人は、2018年に3000万人突破、丹後においても増加傾向にある。新型コロナにより激減したものの、2025年大阪万博に向けてV字回復が期待される。
- ・これを契機に日本の伝統・文化・技術等に対する世界的な関心が今後も高まることが予想される。京都から遠くない丹後でも、潜在的なポテンシャルは高まると予想される。

2 デジタル化による情報発信力と世界市場へのアクセス向上

- ・情報化の進展に伴い、市場を巡る競争環境が世界規模となっている。SNSをはじめとする情報伝達の革新、越境ECの発達等により、安価なコストで容易に世界市場にアクセスできる環境が整うなど、地理的ハンディは低くなっている。

3 世界的な衣服需要・シルク需要の増大

- ・世界的な人口増加と途上国の経済成長に伴い、衣服需要は近年四半世紀で2.3倍化、今後も毎年3.6%の成長予測である。とりわけシルク需要については、今後ますます増大すると予想され、高質な製品への注目は高まると期待される。

4 若年層の「和装」への関心の高まり

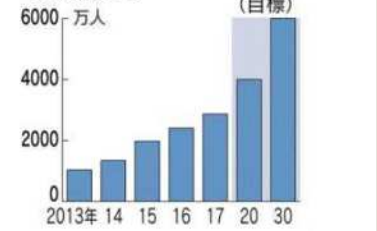
- ・「和装に触れる」授業が中学校で導入されるなど、日本人のアイデンティティを呼び覚ますツールとして、和装に注目が高まっている。F1層を中心にファッションアイテムとして浴衣など「和装」を楽しむ女性が増加するなど、関心の高まりが見られる。



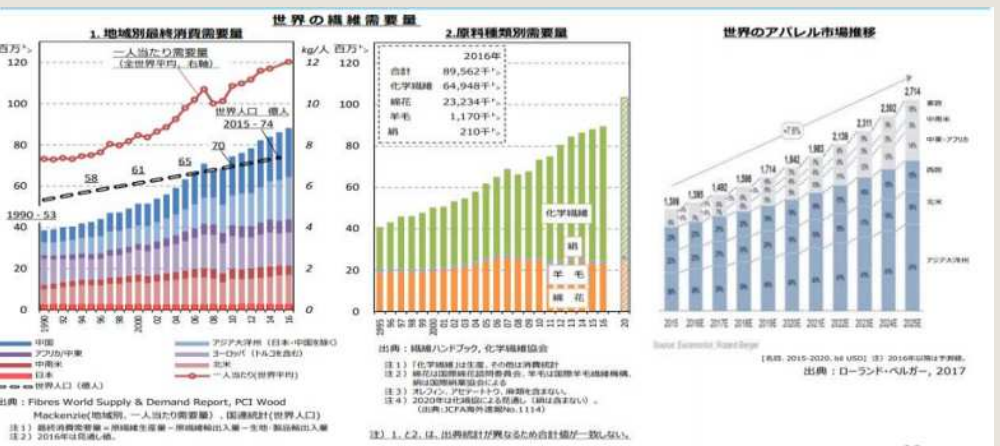
急増している来日外国人観光客



訪日客は2030年には倍増する見込み (目標)



世界的な衣装需要・シルク需要の増加



出展「繊維産業の課題と経済産業省の取組」令和元年7月 経済産業省製造産業局生活製品課

1. 現状と課題 ～今後訪れる脅威～

1 人口減少社会における日本経済のシュリンク

- 人口減少と高齢化が進む本邦において、地方都市におけるコミュニティや地域固有の文化の消失をはじめ、経済活動のシュリンク、産業分野における事業承継や技術継承が問題化されている。

2 輸入衣服の増加 / 国内繊維産業の壊滅

- 国内アパレル市場における輸入浸透率は、依然増加しており、2017年には97%を達成。国内の繊維事業所数、製造品出荷額は、1991年比で1/4まで減少している。
- 今後もこの傾向は続くことが予想され、大量生産に係る国内繊維産業は全滅の恐れ。

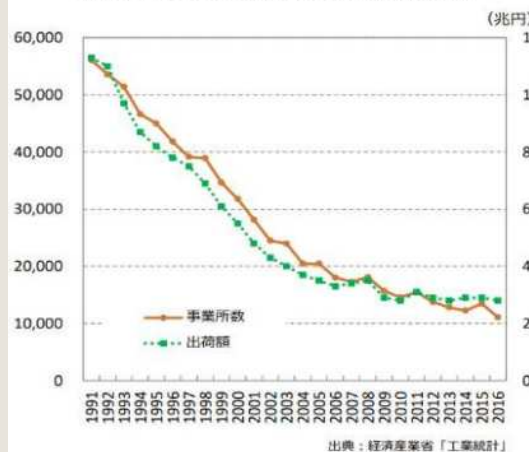
3 「和装」市場の危機的状況の継続

- ライフスタイルやファッションの変化に伴う和装需要の減退は、1980年の約1.8兆円をピークに減少し続けている。これに伴い丹後の白生地生産量は令和元年で約25万反と、ピーク時（1973年）の97%減である。
- 一部に若い世代による和装の見直しがみられるものの、総量としては大きな回復が見込めず、危機的状況は継続するものと見られる。

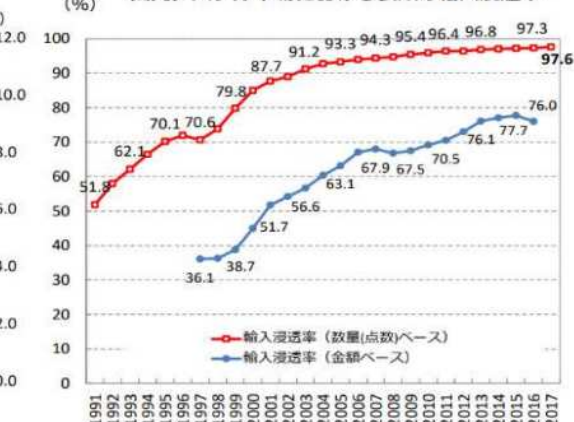
↓
国内の和装市2017 約1.8兆円(1980年) → 2880億円(2017年) 16%
白生地の生産量2017 1973年(ピーク時)の 3%

国内繊維産業の縮小、輸入衣装の増加

国内繊維産業の事業所数及び製造品出荷額



国内アパレル市場における衣類の輸入浸透率



出展「繊維産業の課題と経済産業省の取組」 令和元年7月 経済産業省製造産業局生活製品課

1世帯当たり年間の品目別購入数量(二人以上の世帯)



1世帯当たり年間の品目別支出金額(二人以上の世帯)



総務省家計調査より作成

1. 現状と課題

～コロナ禍による社会の変化～

1 あたらしい生活様式の浸透

- EC、SNS、TV会議等オンライン・デジタル技術を取り入れた働き方、あたらしい生活様式が浸透する。
- 対面販売など感染リスクのある販売、営業方法は当面の間、制限される。
- 5Gや新たなデジタル技術、プラットフォームの出現や浸透が予測され、生産、流通、販売等あらゆるチャンネルで急速に導入が進む事が予測される。

2 DX（デジタル・トランスフォーメーション）への対応

- 既に浸透している、Web、EC、SNSへの対応だけでなく、AR、VR、AI等を活用したビジネスの在り方を模索し、対応していかなければ取り残される。新技術に対し常にリサーチと研究を怠らないようにしなければならない。
- アナログな仕事の仕方に慣れきってしまっている組合員の意識改革、研修に早急に取り組む必要がある。
- 高齢化が進む中で、どこまで新たな技術へ対応する事ができるか？ 対応できない組合員へのフォローをどうするのか？

3 EC、越境EC、オンライン商談システム等を活用した販路開拓

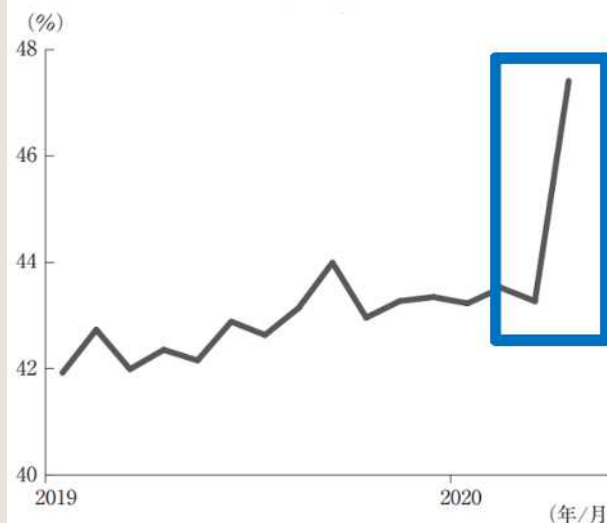
- 既存の間屋経由の商流だけに頼らない新たな商流への取り組み
- 既存問屋販売と相反する商流に対する意義付けや基準について

新しい生活様式の実践例

衛生管理	• 手洗い・手指消毒の励行 • 咳エチケットの徹底 • 体温測定、健康チェックの徹底 • こまめな換気 など
日常生活	• 通販や持ち帰り、デリバリーなどの利用 • 電子決済の利用 • 他人との距離を保ち、会話は控えめに • 屋内の密閉空間を回避 など
働き方	• テレワークやローテーション勤務 • 時差通勤 • 会議や名刺交換などのオンライン化 • オフィスは広々と など

(資料) 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議を基に日本総合研究所作成

EC消費利用世帯のシェア



(資料) 総務省「家計消費状況調査」を基に日本総合研究所作成

1. 現状と課題 ～SWOT分析に見る 丹後地域の課題～

丹後の基幹産業＝
「織物」を基軸に、
地域を活性化する上
での課題は何か?!

外部要因

今後の機会 (Opportunities)

万博に伴う日本ブームの到来

- ・来日外国人客の拡大と日本ブームの再来
- ・デジタル化による情報発信力と世界市場へのアクセス向上
- ・世界的な衣服需要・シルク需要の増大
- ・若年層の「和装」への関心の高まり

今後の脅威(Threats)

迫られる従来ビジネスからの転換

- ・人口減少社会における日本経済のシュリンク
- ・輸入衣服の増加 / 国内繊維産業の壊滅
- ・「和装」市場の危機的状況の継続

地域の強み (Strengths)

豊富な観光資源&誇るべき織物技術

- ・自然資源・歴史資源など豊富な観光素材
- ・日本遺産「丹後ちりめん回廊」など魅力的な文化コンテンツ
- ・日本一の絹織物産地 / 世界に誇る織物の技術

積極的攻勢かけるべきこと(強み×機会)

グローバルニッチ市場への挑戦

- ・レベルの高い技術力を生かした世界最高のテキスタイルクリエイション産地化
- ・市場ニーズを的確に捉えたデザイン性・品質性の高い商品力の向上

差別化戦略に生かすこと(強み×脅威)

「地域資源×織物」の新商品開発

- ・従来型の「繊維産地」から脱却し、丹後の自然・食文化・風土を生かした新たな商品開発
- ・世界中の消費者に感動を提供

地域の弱み(Weakness)

市場へのアクセス経験-能力の不足

- ・急速に進展する少子高齢化、過疎化
- ・国土軸から乖離 / 日本海連携に期待
- ・繊維産業に係る生産基盤の弱体化
- ・競争力ある商品の不足 / 外国人観光客へのアピール不足

段階的施策に繋ぐべきこと(弱み×機会)

ICTを活用した発信とプライド醸成

- ・ICTを最大限活用することで物理的距離を克服し、世界市場を対象にビジネス展開できるインフラ整備
- ・「丹後プライド」を皆が共有し、次世代が夢を持って働き続けられる環境づくり

専守防衛すべきこと(弱み×脅威)

人材・技術・設備の承継

- ・第三者事業承継(M&A)や職人の技術承継による事業・技術の継承
- ・老朽化した設備・部品の補給に係る供給体制の整備

内部要因

2. 上位計画・関連計画

2. 上位計画・関連計画（京都府）

京都府総合計画「丹後地域振興計画」（令和2年策定） ～安心して「元気」に住み続けることができ、希望が持て夢が実現できる丹後地域～

1 基本方針

施策の推進に当たっては、人権を尊重しながら府民個々の能力が発揮できるように、地域の特性を踏まえ「様々な主体（※）との連携・協働・共創」の視点で実施します。特に、丹後の強みである「豊かな食」、「ものづくりの伝統・技術」、「魅力あふれる歴史・文化」を生かし、各市町や関係団体などと連携しながら戦略的に取り組みます。

※様々な主体：地域住民、市町、海の京都DMO、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会、大学などの教育機関、企業、商店街、地域で活動する団体などありとあらゆる主体

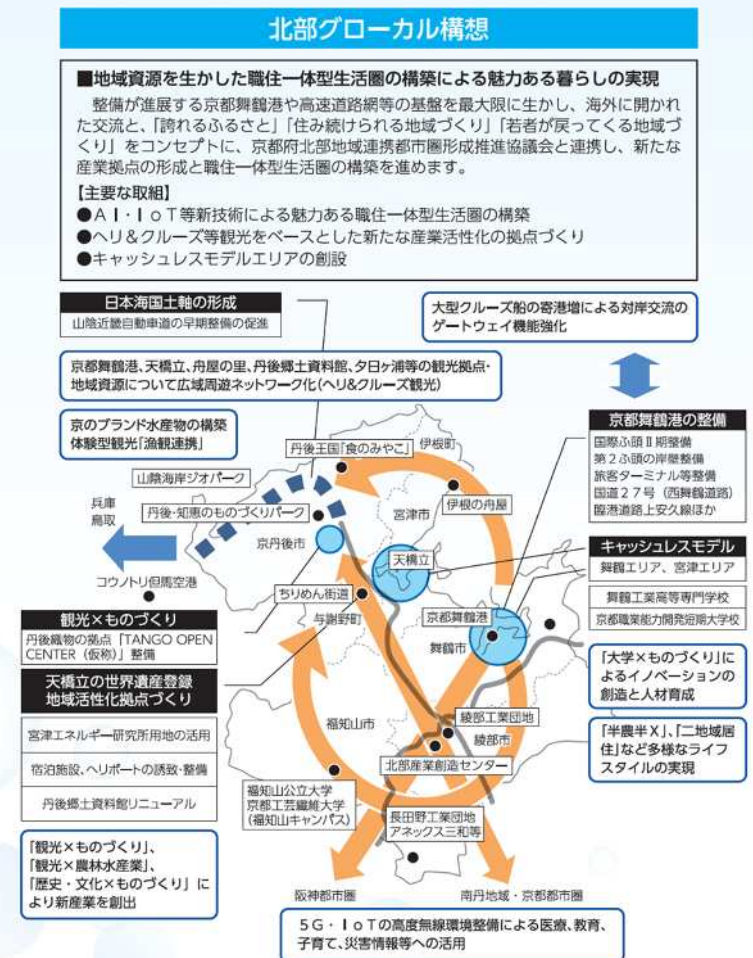
2 令和2年（2020）から4年間で取組むこと

（1）住み続けることができる安心・安全な地域づくり
地域産業の営みや人々の暮らしの下支えとなる、災害に強い安全な地域、安心して元気に住み続けられる地域づくりを推進

（2）稼ぐ力の強化による産業振興
観光産業の振興を入口としながら、地域に根付く織物業や機械金属業等ものづくり産業や農林水産業などの基幹産業全体の更なる発展に取り組み、稼げる地域づくりを推進

（3）地域を支える人材の確保・育成
稼ぐ力の源泉となる人材の確保・育成を進めることにより、更に地域全体が活性化する好循環を実現するため、誰もが活躍できる地域づくりを推進

エリア構想※



2. 上位計画・関連計画（京都府）

京都府総合計画「丹後地域振興計画」（令和2年策定）

～安心して「元気」に住み続けることができ、希望が持て夢が実現できる丹後地域～

- 1 戦略1：「海の京都」構想の更なる深度化
- ・ジオパーク、日本遺産等を活用し行政の垣根を越えた周遊型観光促進
 - ・Eバイク、ジオトレイル等の推進、豊かな「食」、海岸や海のスポーツ等を活用した観光誘客
 - ・「丹後ちりめん」の魅力を生かした職人ツアーやコト体験等、稼げる産業観光創出

- 2 戦略2：ものづくり産業等地域産業の振興
- ・「丹後ちりめん創業300年事業」等を契機として、「織物といえば丹後」と世界中のデザイナー、バイヤーが行き来するクリエイティブな地域づくりを推進
 - ・次世代への技術継承を図るとともに、市場ニーズに合った商品開発の推進
 - ・既存分野から新分野への進出及びA I・I o T技術等の活用による企業の支援を実施
 - ・地域企業のニーズに応じた人材育成研修等を推進し、企業の技術力向上を支援。
 - ・異業種連携等を推進し、企業の新分野進出を支援

観光×ものづくり

丹後織物の拠点「TANGO OPEN CENTER（仮称）」整備

「観光×ものづくり」、
「観光×農林水産業」、
「歴史・文化×ものづくり」により新産業を創出

（2）稼ぐ力の強化による産業振興

指標名称	単位	基準値 (2018年度)	数値目標 (2023年度)
6 管内観光入込客数	千人	5,872 (2018年)	8,400 (2023年)
7 管内観光消費額 (一人当たり観光消費額)	百万円 (円)	17,737 (3,021) (2018年)	31,400 (3,750) (2023年)
8 管内宿泊者数	千人	940 (2018年)	1,177 (2023年)
9 管内の製造品出荷額等	億円	1,109 (2017年)	1,294 (2023年)
10 農林水産業へのA I・I C Tなどの先端技術導入事例数 (累計)	件	—	10
11 6次産業化取組支援件数(累計)	件	18	118

目標設定の考え方	出典	参考年間目標
京都府観光総合戦略のK P I指標を踏まえ、年50万人の増加をめざす	京都府観光入込客調査(京都府)	2019年：6,500 2020年：6,900 2021年：7,400 2022年：7,900
京都府観光総合戦略のK P I指標を踏まえ、年27億円(一人当たり150円)の増加をめざす	京都府観光入込客調査(京都府)	2019年：20,500 2020年：23,200 2021年：25,900 2022年：28,700
海の京都観光圏整備実施計画を踏まえ、2023年には、基準年から237千人の増加をめざす	京都府観光入込客調査(京都府)	2019年：1,020 2020年：1,059 2021年：1,099 2022年：1,138
稼ぐ力の強化の取組を進めることにより過去5回の調査の平均増加額を今後も達成	工業統計調査(経済産業省)	2019年：1,146 2020年：1,183 2021年：1,220 2022年：1,257
A I・I C T(情報通信技術)等先端技術導入事例を毎年度新たに2箇所確実に増加	丹後広域振興局による実態把握	2019年度：2 2020年度：4 2021年度：6 2022年度：8
6次産業化支援件数(小さな経営革新チャレンジ支援事業、京都6次化ステップアップ事業等)を基準年度から目標年度までに100件増加	丹後広域振興局による実態把握	2019年度：38 2020年度：58 2021年度：78 2022年度：98

2. 上位計画・関連計画（京丹後市）

京丹後市 第2次京丹後市総合計画「基本計画」（令和2年改訂） 第2期 京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略

政策の企画・実行にあたっての基本方針

＜まち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則＞

①自立性

地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるような施策に取り組む。

②将来性 施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。

③地域性

地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。

④総合性

施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。

⑤結果重視

施策の結果を重視するため、明確なPDCAサイクルの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

基本目標

1. 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする

- (1) ふるさと納税10倍プロジェクトの推進
- (2) 地域経済を担う商工業の挑戦を支援
- (3) 「織物業」「機械金属業」の成長促進と新産業の創出
- (4) 6次産業化・ブランド化で「稼ぐ農林水産業」を実現

2. 本市との関係性を築き、本市への新しいひとの流れをつくる

- (1) 四季を通じた滞在型観光・スポーツ観光の推進
- (2) テレワークの推進による「京丹後型ワークスタイル」の創造
- (3) 関係人口の創出・拡大とU・Iターン支援で未来人材を惹きつける

3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- (1) 若者の就労支援と後継者の育成
- (2) 「子育て環境日本一のまち」の構築とワーク・ライフ・バランスの実現
- (3) 子どもたちの夢や向上心を支え、未来を取り込む教育の推進

4. ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- (1) ひとが行き交う公共交通の充実
- (2) 「百才活力社会づくり」の提唱、推進
- (3) 脱炭素型社会の構築と気候変動への適応
- (4) 魅力的な都市空間の創出と交通アクセス向上の促進
- (5) 空家対策とうるおいのある住環境の形成
- (6) 地域ぐるみによる消防・防災・防犯体制の充実
- (7) 歴史・文化を未来につなぐ誇りあるまちづくり
- (8) 地域間及び広域連携の促進

横断的な目標

横断的な目標1

多様な人材の活躍を推進する

- (1) 市民総参加で持続可能な地域づくりの推進
- (2) 『誰ひとり置き去りにしない』地域共生社会の実現
- (3) 多様な人材の就労、社会参画を促進

横断的な目標2

新しい時代の流れを力にする

- (1) 地域におけるSociety 5.0の推進
- (2) 地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり

2. 上位計画・関連計画（京丹後市）

京丹後市 第2期 京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略 アクションプラン

京丹後市における政策の基本目標	施策
1. 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする	(3)「織物業」「機械金属業」の成長促進と新産業の創出

●現在の課題

- 丹後ちりめんの白生地生産量は、昭和48年の約1,000万反をピークに、令和元（2019）年は25.3万反となっており、丹後ちりめんや着物の国内外での認知度向上や販路開拓、生産設備の改善による生産性向上、人材育成を図ること。
- 生糸の原料となる繭の生産（養蚕）については、絹・シルク関連の産業集積化及び和装をはじめ高付加価値された絹・シルクを活用する裾野の広い新しい産業・文化の創造と一層の振興・発信の推進力を付けること。
- 機械金属業においては、業界の新たな動向の把握や人材育成を進めるとともに、関東地域での販路開拓等、事業者の主体的なビジネス展開や、新分野企業とのビジネスマッチングを促進すること。

●必要な対応

- 基幹産業である「織物業」や「機械金属業」のブランド力のさらなる向上及びものづくり産業の成長促進を図り、未来へ継承していくため、新技術・新商品開発や情報発信、人材育成を強化する。また、新たなシルク産業の創造に向けた基礎研究の成果を事業化につなげていくための取組を進め、産業集積を促進するとともに、専門職大学の設置推進等により、ものづくり産業の一層の振興をめざす。

●短期・中長期の工程表

	2021年度まで	2022年度
取組内容	○織物業の商談機能強化及び人材確保・育成のために織物関連事業者等がめざす「TANGO OPEN CENTER（仮称）」事業への支援（※） ○日本遺産「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」の情報発信（※） ○機械金属業の展示会・商談会等への出展支援（※） ○機械金属業の人材確保の推進（※） ○新シルク産業の振興及び絹・シルク文化の発信（※） ○無菌周年養蚕技術及び高機能性絹・シルクに関する研究の成果を活用した事業化の推進（※） ○新シルク産業に関わる人材の育成（※） ○新シルク産業創出に向けた創業・第2創業・事業拡充支援（※）	○織物業の商談機能強化及び人材確保・育成のために織物関連事業者等がめざす「TANGO OPEN CENTER」事業への支援【継】 ○日本遺産「300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊」の情報発信【継】 ○機械金属業の展示会・商談会等への出展支援【継】 ○機械金属業の人材確保の推進【継】 ○新シルク産業の振興及び絹・シルク文化の発信【継】 ○無菌周年養蚕技術及び高機能性絹・シルクに関する研究の成果を活用した事業化の推進【継】 ○新シルク産業に関わる人材の育成【継】 ○新シルク産業創出に向けた創業・第2創業・事業拡充支援【継】
	○市内への新シルク産業の集積化推進（※） ○ものづくり産業の新たな可能性を引き出す専門職大学等高等教育機関の設置推進（※） （※）：2022年度も継続する取組。	○市内への新シルク産業の集積化推進【継】 ○ものづくり産業の新たな可能性を引き出す専門職大学等高等教育機関の設置推進【継】 【継】：以前から継続する取組。【新】：新規の取組。
2024年度 KPI （成果目標）	○製造品出荷額 767.2億円（2017年）⇒880億円 ○市内織物業従業者1人当たりの出荷額 238.2万円（2016年）⇒300万円	

2. 上位計画・関連計画（与謝野町）

第2期与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略（令和2年策定）

「未来への約束“The promise for our future” ～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～」

1 5つの基本目標

本町では高校卒業後の若年層の転出超過が人口減少の最大の原因となっています。若者が町内へ帰ってくる、あるいは訪れる仕組みづくりが重要な視点であることを踏まえ、第1期に引き続き、まちや地域に対する愛情（よさの愛）を持った「ひとづくり」を最重要目標とし、よさの愛にあふれたキラリと光る人財による「しごとづくり」「まちづくり」を推進していくため、5つの基本目標を柱に第2期与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略をまとめました。

基本目標 1	与謝野を愛し、多様性を認め合いながら、新しいモノやコトを創出する地域人財をつくる ～よさの愛あふれる“よさの人”の育成、活躍、そして、チャレンジを応援～
基本目標 2	たすけあう地域ぐるみの出産・子育てを実現 ～子育てするならこのまちで～
基本目標 3	持続可能な与謝野の産業をつくる ～与謝野町中小企業振興基本条例を核とした地域企業の育成～
基本目標 4	まちへの人の流れをつくる ～人と仕事の魅力で、交わる、関わる、集うまち～
基本目標 5	地域と地域が連携し、持続可能なまちをつくる ～新しい時代の流れを力に、つながり助け合って、安心・元気な暮らしを実現～



2. 上位計画・関連計画（与謝野町）

第2期与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略（令和2年策定）

「未来への約束“The promise for our future” ～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～」

2 地域経済循環の確立

①基幹産業の振興

与謝野町の産業は山・川・海が連なる恵まれた自然環境のもと息づいています。京の豆っこ米をはじめとする自然循環農業やスマート農業13等に挑戦し続ける農業、丹後ちりめん代表される絹織物の製造生産で培ってきた高い技術力を持つ織物業など、与謝野町ならではの価値を活かした地域の基幹産業の振興を図ります。

②産業間連携の推進

商業、工業、農林業、観光、福祉、健康、医療、教育、環境等の様々な産業間連携を図り、新たな価値の創出と地域産業発展の可能性を広げます。

③産業イノベーション14の促進

未来技術を積極的に導入・活用し、多様な掛け合わせ・産業間連携による産業イノベーションを促します。

3 基本的方針

地域の魅力が日々の暮らしの中に溶け込んでいる与謝野町では、自然景観や産業、人などの地域資源を活かした体験プログラムによる人の流れ、与謝野町観光協会（海の京都DMO18与謝野地域本部）を中心とした地域住民、住民団体との連携によるさらなる地域の魅力向上が必要です。

さらに、移住希望者が与謝野町を移住先候補の一つとして選択する認知度の向上を図り、まちの特色や環境、人の魅力で惹きつけられる情報発信を強化するとともに、各地区や各種団体、企業等と緊密な連携を図り、与謝野町全体で移住者を積極的に受け入れるという気運を醸成する必要があります。

また、若手人財が途切れることなく町内へ帰ってくる、あるいは訪れる仕組みづくりを構築し、大学生（大学含む）や若者の持つ知性・感性・創造性などをまちづくりのエッセンスにした地域の活性化を促し、関係人口、移住定住の他、与謝野町の産業における人財確保の観点からも、民間の吸引力による展開を図ることが重要です。

3. これまでの取り組み

3. これまでの取り組み

(1) 日本の着物文化の中心的役割

丹後は1300年以上前から絹織物の産地であった歴史を有します。

江戸時代に京都西陣で「お召ちりめん」が誕生した後、丹後の織物は「田舎絹」と呼ばれ、売れ行きが低迷。農業の凶作と重なり、人々の生活は極めて困窮しました。その危機を乗り越えようと、京都西陣に赴き、ちりめん織りの技術を持ち帰った数名の先人たちがいました。帰郷後、独特の「シボ（生地凹凸）」を持ったちりめんの生産に成功し、これが丹後ちりめんの始まりとなったのです。彼らはその技術の人々に惜しみなく教え、瞬く間に丹後一円に広まりました。

丹後の職人たちは300年の間、各時代の和装シーンにいくつもの主流商品を生み出してきました。生地が透けて見える紹ちりめん、色糸・金銀糸などを織り込む縫取ちりめん、上品な光沢を放つ緞子ちりめんなど、撚糸と織り技術の応用によって様々な「表情〈テクスチャー〉」の素材が誕生しました。その結果、戦前から丹後は日本一の絹織物生産地となり、今やそのシェアは全国の約70%にも上ります。そしてその挑戦は、今もなお続いています。



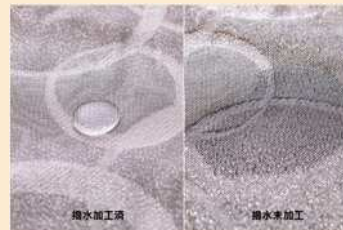
3. これまでの取り組み

(2) 織物関連の各種サービスの提供

- 1 精練加工
- ・精練加工（小物・小幅・広幅）
 - ・オリーブ精練加工



- 2 よごれ落とし
- ・漂白加工
 - ・D S加工
 - ・S N加工
 - ・S N D S加工



- 3 生地加工
- ・整理加工 ・SN抗ウイルス加工 ・ハイパーガード加工
 - ・ク린ティ加工（抗菌・抗ウイルス加工）
 - ・S N 抗菌・防臭加工 ・サニーライク加工
 - ・蛍光染め加工（白染め加工）・防シワ加工
 - ・冷感加工（接触・吸湿） ・温感加工・遠赤外線加工
 - ・蒸絨(じょうじゅう)加工 ・撥水加工 ・柔軟加工
 - ・紫外線カット加工 ・無地染め（小物～160cm）
 - ・湯のし ・湯通し ・直干し ・手のし

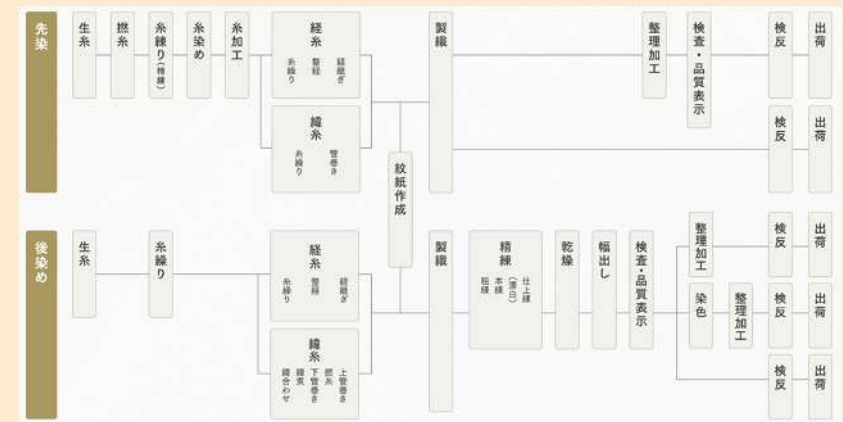
- 4 生糸の加工
- ・糸練り ・糸染め ・防染加工 ・増染糸加工
 - ・セリシン定着加工 ・ノンフィル加工



- 5 化粧品・スキンケア
- ・絹セリシン配合「きぬもよふ」シリーズ



- 6 工場と生地開発
- ・産地内で完結するワンストップ生産体制



3. これまでの取り組み

(3) 「TANGO OPEN」 新たな産地ブランディングへの取り組み

「TANGO OPEN」の取り組み



- 1 従来の「丹後ちりめん」のイメージの枠にとどまらず、ちりめん織りの伝統を背景に、卓越した技術によって生み出された世界に通用する最高品質の生地や商品が多くなっているなか、それらを世界にアピールしていくにあたり、「TANGO OPEN」のブランドロゴを作成し、丹後織物工業組合においてロゴ活用事業者の認定を行っている。
- 2 「TANGO OPEN」は洋装等にも展開することを念頭に、和装の「丹後ちりめん」とすみ分けし、世界の人に愛され、リスペクトされるブランドとして育成し、産地全域のブランドイメージ向上を目指しており、作り手たちが丹後という地名に誇りを持ちながら、「世界に向け開かれた姿勢で新しい価値観を受け入れ、世界を切り開いていく宣言」です。

CONCEPT

人をひらく。
道をひらく。
夢をひらく。

世界のクリエイターの視点から日本を眺めると、
TANGOと呼ばれるエリアには創造力を刺激する美の素材が、
未曾有に埋蔵されているらしい。

これまでの伝統やモノづくりの枠にとられない未来へ。
TANGOのトビラは、次の時代を作る人々のためにひらかれている。
日本文化を未来へ紡ぐ新たな美の始まりが、ここTANGOから。

京都・丹後で育まれた絹織物の歴史。
1720年に誕生した「丹後ちりめん」は着物の代表的な生地として和装文化を支えてきた。
伝統と格式がもたらす、素材の上質感。
そこから培った唯一無二の魅力と技法。
世界へ、そして未来へ。
次の300年へ向けての新たな挑戦が丹後から始まっている。

TANGO OPEN——。2020_2320

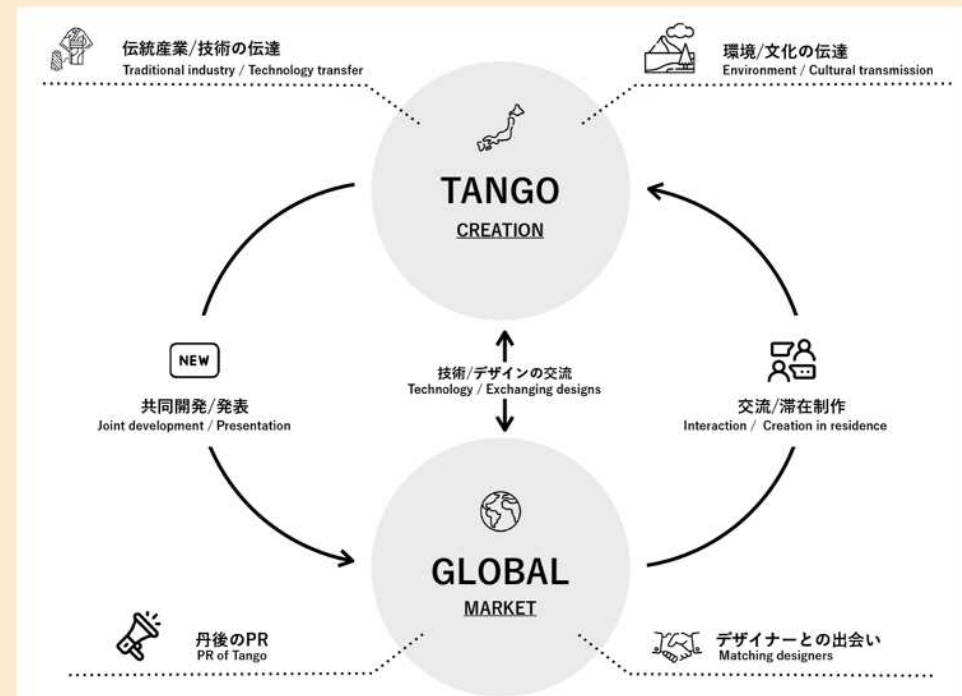


3. これまでの取り組み

(4) 「TANGO CREATION PLATFORM」 産地と協業する価値の創造

「TANGO CREATION PLATFORM」の取り組み

- 1 2019年よりスタートした「TANGO CREATION PLATFORM」は、丹後が持つ様々な魅力を外に開くことで新たな地域の可能性を模索するプロジェクト。「丹後ちりめん」と世界で活躍するクリエイター/デザイナーが滞在と交流を通じ、新たな領域の丹後ちりめんを模索する。
滞在の中で出会う丹後の伝統、文化、風土、そしてリアルな工房の現場から様々なインスピレーションを得て作品が創造される。
- 2 2020年は、コロナ禍の影響により実行困難な状況におかれたが、オンライン観光やビデオ会議を通じて本来の滞在体験に近づける形を工夫し開催。
今回の特殊な環境下でも、関係者の相互協力と熱意により国を超えたクリエイションが可能なることを証明した。
日本と海外を拠点にするデザイナーの感性が融合した、新たな「丹後ちりめん」の可能性を紹介する。



3. これまでの取り組み

(5) 「2020 丹後ちりめん 創業300年事業」 次代へ、新たな挑戦

「丹後ちりめん 創業300年事業」について

2020年、丹後産地を代表する絹織物「丹後ちりめん」は創業300年を迎えました。

1300年つづく絹織物産地「丹後」に、革命的な変化を与えた「丹後ちりめん」は、今から300年前の1720年に郷土人たちの手によって生み出され、丹後地域に“活気”と“富み”をもたらしました。

伝統技法を護りつつ、職人たちの技術力、高度な加工技術により「ものづくり」の進化を続ける丹後産地は、丹後ちりめんをはじめ京都・西陣の生産基地としての機能も兼ね備えた、日本の和装文化を支える日本一の絹織物産地を形成しています。

さらに、職人たちの挑戦は和装分野にとどまらず、洋装、インテリア分野などへ拡がりを見せ、職人たちの技術、感性から創り出される多様性のある織物は、国内外の名だたるブランドからも高い評価を受けており、市場に新たな風を吹き込んでいます。

糸を「撚る」こと、それを巧みに「織る」ことを可能にした職人たちの技術は、今もなお世界最高水準の技術として受け継がれ、新たな価値を創造する源泉となっています。

丹後ちりめん創業300年は、伝統に裏打ちされたブランドをもとに、新時代の「はじまり」の年となります。

次なる100年に向けて…。



Texture
生地表情
の歴史



Technology
世界最高水準
「撚糸×織り」



Diversity
多様性の時代
世界へ向けて



Potential
丹後の
新たな可能性



Climate
丹後の風土と
日本遺産



History
丹後ちりめんの
歩み

3. これまでの取り組み

(6) TANGO OPEN CENTER トライアル事業

TANGO OPEN CENTER 構想の実現に向けて、下記の施策を実施

1 「TANGO TEXTILE EXHIBITION」

創業300周年をきっかけに、丹後織物求評会を合わせた展示会を旧和装棟を小規模改修して実施。それまで京都市内での開催が主であった丹後織物の展示会を地元丹後で実施し、多くの関係者、取引先に来場頂くことができ、以降毎年開催している。



2 「撮影スタジオ整備」

産地の織物関連事業者が、DX時代の到来に対応すべく、自ら高品質な、生地写真、商品写真、動画撮影、各種のデジタルPR素材を制作できるよう、旧和装棟を改修。産地自身が、自らその価値を発信できる能力を強化し、動画配信、オンライン商談会やオンラインイベント実施などにも活用していく。



3 「オンライン商談会」

コロナ禍で一段と普及したオンライン技術を活用し、対面接触が制限され、商機を失い大打撃を受けている組合員や産地全体の営業機会を補完する為に、国内外のバイヤーに向けたオンライン商談会を継続的に実施。



3. これまでの取り組み

(6) TANGO OPEN CENTER トライアル事業

TANGO OPEN CENTER 構想の実現に向けて、下記の施策を実施

4 「ECサイト構築」

コロナ以前より急激に発達して来たEコマースは、既に一般に普及し、有力な良品購入の選択肢として定着している。今後益々、産地toCの直接販売の機会が増大する事は間違いなく、当組合としてもこれを拡充し、産地の持続的発展につなげていきたい。



5 「デパートPOP UP」

オンラインビジネスが今後も発達する事は間違いないが、一方で対面機会も消滅する訳ではなく、実際に現物の商品を見て、その良さを訴求する機会や、人と人とのリアルな出会いにより生まれる価値もまた重要であると考え、特に首都圏や大規模消費地で、作り手が直接消費者にプレゼンテーションや販売が出来る機会を今後も継続維持していく。



4. 将来目標と戦略

4. 将来目標と戦略 ～世界のテキスタイル・クリエイション産地を目指して～

丹後は、大陸との交流や気候風土を活かし、天平時代（八世紀）から紵や精好などの絹織物が織られてきました。1720年（享保5年）に京都西陣から「ちりめん織り」の技法をもとに創り出された「丹後ちりめん」は、この地域の基幹産業として発展しました。

しかし時代と共に、きもの離れが進み、今ではその存続が危ぶまれています。きもの市場だけに依存する状況を改め、これまで培ってきた織技術や関連技術を活かして、ファッションやインテリアなどの成長するグローバルな市場を目指すことが不可欠です。

このため、「世界のテキスタイルクリエイション産地」を目指して、デザイナー、アーティスト、バイヤーなど世界のテキスタイル関係者、クリエイターの丹後への招致を図る「アーティスト・イン・レジデンス※注）を推進します。あわせて、日本の原風景を感じさせる丹後の自然や豊かな食、生業としての織物なども含めた、独自性ある「丹後ブランド」づくりを通じてクラフトツーリズムなどを促進することで新たな活力を創出して参ります。

具体的に下記の4つの将来目標を設定するとともに、これらを実現するための戦略を定めるものです。

① 消費者に感動を与える商品が生まれる産地

・「絹織物といえば丹後」「クリエイティブな商品づくりが可能な地域」として、国内外のデザイナー・バイヤーからユーザーまで、多くの方に注目される産地を目指す

② 世界に通用するものづくり技術を有する産地

・日本最大の絹織物産地として、国内最大規模を誇り高い技術力を有する精練・加工施設を持つ、日本のものづくりを支える産地を目指す

③ 日本の和装文化を牽引する産地

・和装文化を世界に発信し、世界への興味・関心を促し、日本文化の理解と普及を狙う産地を目指す

④ 子どもたちが希望を持てる産地

・地域の子供たちや若者が、将来の「夢」「希望」を見出すことができる産地を目指す

注）アーティスト・イン・レジデンス（Artist in Residence、「AIR」）とは、国内外からアーティストを一定期間招へいして、滞在中の活動を支援する事業（出典：日本全国のアーティスト・イン・レジデンス総合サイト）

4. 将来目標と戦略 ～目標実現のための戦略～

1 「消費者に感動を与える商品が生まれる産地」を目指す 新商品開発&販路開拓

(1) 連携強化によるイノベーションの創出

- ・丹後の織物を活かし、現代生活に対応した産地ブランド「TANGO OPEN CREATIONS」商品の開発と販売

(2) マーケットインの視点による新商品開発

- ・既に取り組んでいるアーティストインレジデンス事業を拡充し、国内外デザイナー等とのコラボによる質の高い製品づくりを行い「TANGO OPEN CREATIONS」の商品を拡充
- ・「工場と共に創る」バイヤー（BtoB）やユーザー（BtoC）が求める商品開発

(3) 生地の販売機能、決済機能を持つ「生地商社」機能

- ・産地自らが、テキスタイル市場の中心（東京、パリ、ミラノ、NY 上海等）に生地販売エージェントを雇用し、自ら直接販売業務を行える体制を確立。市場情報を元に商品開発にも活用
- ・海外ブランドとの取引等、決済代行や資金繰り機能を持つ「生地商社」機能を地元金融機関等と提携し設立。国際取引をよりスムーズに展開

(4) 新たな市場開拓に対応する商談機会の創出

- ・国内外のバイヤー・デザイナーとを繋ぐハブ機能の設置
- ・オンライン商談システムの拡充による生地サンプルの提供など、商談のデジタル化を進め、迅速、簡易な取引を促す
- ・リアルとバーチャルが融合した展示・商談会の開催

2 「世界に通用するものづくり技術を有する産地」を 稼げる産地へ

(1) 組合加工場の営業力強化

- ・国内最大の高い技術力を有する精練・加工施設の技術、サービスを全国展開し、地元だけでなく、他産地、異分野展開など保有技術を売り込み、「稼げる」加工場に転換。

(2) 他産業（医療、美容、農業等）との連携

- ・丹後織物、素材、技術を生かした商品づくり及び加工場排熱等を利用した農業利用の可能性を検討する。

(3) シルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアム

- ・3産地が連携することにより、和の文化力や技術を生かし、世界のニーズに応えられる魅力ある商品づくりを展開し、さらには直接バイヤーと商談できる力を養い、シルクテキスタイルの世界的な産地となることを目指す。

(4) 後継者・若手経営人材の育成、技術向上

- ・人材育成によるマーケティング&イノベーション機会創出
- ・産学連携によるDX対応スキル向上研修、産業転換促進
- ・府織物・機械金属振興センターと連携した技術開発

(5) 機料品調達供給の検討

- ・京都府内の織物産地が持続可能な生産基盤を確保するために、丹後・西陣両産地が連携し、機料品の仕入調達の共同化や代替機料品の共同開発などを検討することにより、京都府内の織物産業の持続ある産地生産環境の構築を模索する。

4. 将来目標と戦略 ～目標実現のための戦略～

3 「日本の和装文化を牽引する産地」を目指す情報発信

(1) 「日本の着物」をリードするブランドの普及

- ・広報媒体等での積極的活用による認知度の向上
- ・発信する認定事業者の拡大によるブランド力の向上
- ・観光業等他産業と連携した発信

(2) 産地の魅力を正確に伝える発信

- ・生産から完成までの全ての工程が、リアルでもバーチャルでも体験できる場の提供（オープンファクトリー）
- ・丹後が誇る技術や従事者と、それらに対する国内外の影響力のある者からの評価の「見える化」

(3) 和装文化の体験機会の提供

- ・デジタル技術を活用し、バーチャル空間での「きもの体験」等、楽しみながら和装文化を支える技術が体験できる場の提供
- ・「丹後ちりめん祭」の拡大・充実

4 子どもたちが希望を持てる産地」を目指す賑わい創出

(1) 「産業×観光」の新たなモデル創出

- ・海の京都DMOと連携、クラフトツーリズムの促進
- ・農林漁業との連携による6次産業化の推進

(2) 国際化の推進と郷土愛を育む機会の創出

- ・インバウンド観光、アーティストインレジデンスの推進により、「世界から人が集まる地域」である郷土に誇りを持つ機会と雇用を創出し、地元産業への興味を育み、地元への就労機会を拡充する

(3) 新たな担い手人材の確保

- ・短期就労やインターンシップ等の積極的な受入
- ・新規創業、新商品開発、試作トライアル等の機会提供
- ・U I J ターン希望者との交流機会の創出
- ・海外クリエイティブ人材の受け入れ、就労機会の創出

5. 重点プロジェクト ～重点プロジェクト～

目標実現のための戦略を具現化する5つの重点プロジェクト

1. ものづくり拠点の再構築
2. TANGO産地ブランドの構築（和装ブランド・ライフスタイルブランド）
3. 情報収集・発信力の強化
4. 人材育成
5. 交流拠点の整備

※ 2、3は2020年度より先行して、一部取り組みを始めており、2021年5月以降は、TOC（TANGO OPEN CENTER）事業課が担当して継続実施中

5. 重点プロジェクト 1.ものづくり拠点の再構築

①加工場保有技術の新たな販路開拓、技術転用

組合加工場を「稼げる加工場」として
リ・ブランディングし、技術・サービスを販売

織物関連の各種サービスの営業、販路開拓

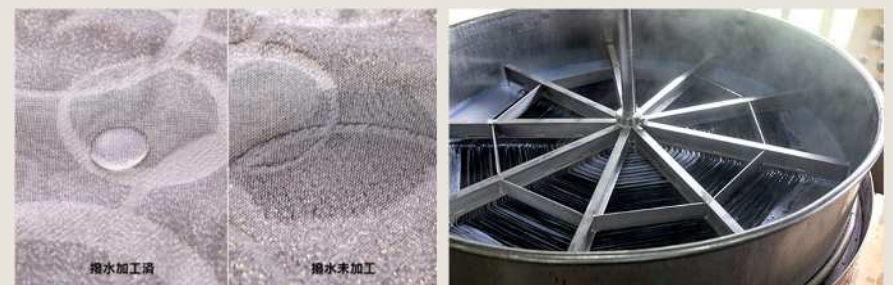
長年培って来た絹織物の精練加工、よごれ落とし、生地加工、
生糸の加工、化粧品・スキンケア商品の「加工請負」の販路
開拓と営業活動を強化する。

1) 国内他産地への技術、加工サービスの販路開拓

- ・国内他産地の織物事業者向けに各種加工の営業、販路開拓
を強化する。

2) 織物産業以外への技術転用を検討

- ・ヘルスケア、食品などに、抗菌ほかの加工技術等を転用
- ・美容分野等に、アロマ、コラーゲン、保湿加工技術などを転用
- ・日本ものづくりワールド@幕張メッセなど織物以外の見本市へ
出展して販路開拓を行う。



5. 重点プロジェクト 1.ものづくり拠点の再構築

③産地の生産体制「出機システム」の再編集

- ・現在丹後地方の生産体制の中心は「出機(でばた)織り」になっており、主に家族経営の零細事業者は材料を支給され、「加工」のみを受託する、内職仕事に近い業態になっている。
この為、商取引において、常に弱者の立場に追いやられ、不安定な低工賃労働に甘んじており、若手が事業継承を行う事が出来ず、高度な織技術が失われようとしている。
- ・これらの事業者の平均年齢は高齢化しており、早期の対策を講じなければ丹後で織物を生産する事が不可能になり、西陣、友禅など、京都府内の和装産業全体が商品を生産する事が出来ず、壊滅状態になることが予測される。
- ・高度な技術継承と安定した生産能力を確立する為には、委託業者が生産体制の内製化を進め、出機事業者の再編成を行い、織物技術の維持・向上、受注体制の確立などが必須である。これに伴い、地元織物産業の雇用の安定化や、高度化、差別化を図ることもでき、高付加価値化も促進され、地域社会全体の振興にもつながる。
- ・これら、生産体制の維持、高度化の為には、織物機械部品の安定供給、メンテナンス体制の確立や、資本の集約等も必要であり、一事業者では達成できない。
当組合のサポートと共に、地元自治体からの支援体制や地元金属加工産業界の支援など、地域全体をあげての取り組みが必須である。

5. 重点プロジェクト 2.TANGO産地ブランドの構築（和装）

①和装 産地ブランド「THE RIZE OF TANGO（仮称）」の立ち上げ

- ・伝統的な和装を、現代的な表現で再定義する「THE RIZE OF TANGO（仮称）」を展開する。
着物・和装をリブランディングして、日本最大の絹織物産地、和装の源流である「丹後」に相応しい王道の和装文化の再提案を行う。
- ・西陣、友禅等の京都府内産地、和装関連企業とも連携して、日本の着物の中心地、「京都」のブランド力を活かし、より源流である丹後の地から和装を再ブランディングする。
- ・産地ブランドのオリジナル和装コレクションを開発し、国内展開を図る。



5. 重点プロジェクト 2.TANGO産地ブランドの構築（ライフスタイル）

②ライフスタイルブランド「TANGO OPEN CREATIONS」の立ち上げ

- ・TANGO OPENのコンセプトの元に、国内外のクリエイターと開発した、世界に通用する一般消費者向けライフスタイルブランド。洋服を中心にインテリアやギフト等も含めた幅広い商品群を展開。
- ・地元丹後（TANGO OPEN CENTER内）と東京に旗艦店開設を目指す。
- ・パリ、ロンドン、ミラノ、NY、上海、シンガポール等の主要都市に取扱い店を開拓。



5. 重点プロジェクト 2.TANGO産地ブランドの構築（先進事例）

③先進事例「今治タオル」

無名の地方産地がOEMから脱却し、約15年で国内のみならず、海外でも人気の産地ブランドへ成長。



出典：<https://www.imabaritowel.jp/>
<https://imabari-towel.jp/shop/default.aspx/>



imabari towel CAFÉ

> Google Map

〒794-0033 愛媛県今治市東門町5丁目14番3号
(今治タオル本店内)
TEL : 0898-34-3486 FAX : 0898-34-3486
営業時間 : 9 : 00 ~ 18 : 00
ラストオーダー : 17 : 30
(年末年始を除き、年中無休)



imabari towel LAB

> Google Map

〒794-0033 愛媛県今治市東門町5丁目14番3号
(今治タオル本店横)
TEL : 0898-34-3486 FAX : 0898-34-3486
営業時間 : 9 : 00 ~ 18 : 00
(年末年始を除き、年中無休)



Japan. Tax-free Shop

今治タオル 南青山店

> Google Map

法人のお客さま、別注刺繍をご希望のお客様からのご相談も承ります。
お気軽にご相談ください。

mail : minamiaoyama@imabari-towel.jp
TEL : 03-6427-2941 FAX : 03-6427-2944
〒107-0062 東京都港区南青山5-3-10

5. 重点プロジェクト 3.情報収集・発信力の強化

①情報発信拠点の整備（リアル拠点）

1) リアル展示場の開設（BtoB）

各種「生地見本」アーカイブ/ショールームの開設
各種「商品見本」ショールームの開設

- ・組合敷地内に開設する交流施設において、産地の生地・商品を一箇所に集め、国内外のデザイナーやバイヤーと商談を行える環境を整備し、販路開拓を促進
- ・国内外アパレル、インテリア企業等との多様な商談促進による受注額増加



2) 撮影スタジオの拡充

自ら情報発信を行える環境整備

- ・生地、商品写真の撮影スタジオを拡充し、商材、商品のクオリティを自ら訴求する
産地ブランド商品のPR→販売につなげる
- ・YouTubeチャンネル開設、オンライン配信イベント等の動画配信によるPR
- ・組合員など周辺利用者への賃貸利用



5. 重点プロジェクト 3.情報収集・発信力の強化

②情報発信拠点の整備（リアル拠点）

1) オンライン展示場の開設（BtoB）

- ・各種生地見本アーカイブルームの開設（オンライン）
- ・各種商品見本アーカイブルームの開設（オンライン）

国内外アパレル、インテリア企業とのオンライン商談会開催によるBtoB受注増加を目指す。

2) 自社EC販売（BtoC）

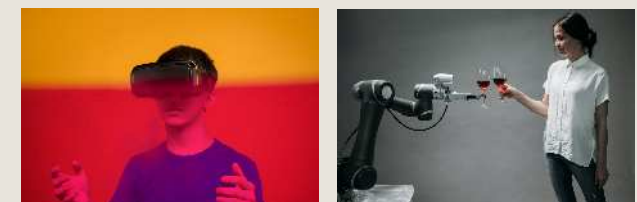
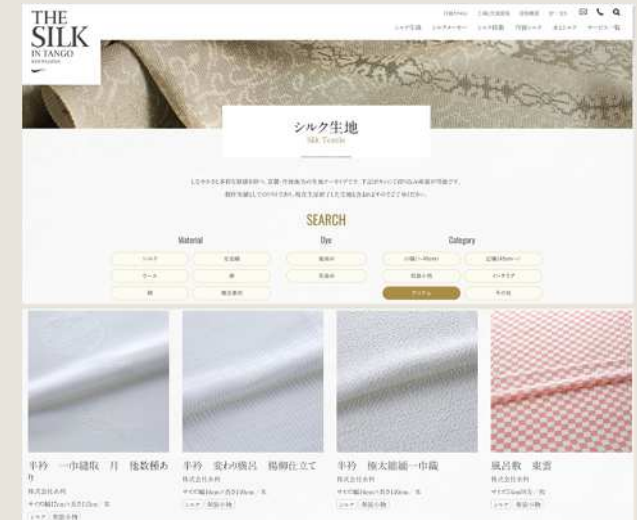
- ・魅力的な産地ブランド「（仮称）THE RIZE OF TANGO（和装）」、「（仮称）TANGO OPEN CREATIONS（ライフスタイル）」を立ち上げ、一般向け最終商品をオンラインでBtoC販売する。

3) オンライン配信スタジオによる情報発信

- ・現在の撮影スタジオの機能を拡張し、YouTubeチャンネルやInstagram、twitter、Facebook page、Clubhouse等のSNS独自チャンネルの運営を行い、国内外に丹後ファンコミュニティを構築し、販売・来訪につなげる。

4) 情報収集、調査研究業務

今後のDXの方向性や新技術（AR、VR、IoT、AI）などに常に注意し組合事業に取り入れる為の情報収集、調査研究と提言を行う



5. 重点プロジェクト 4.人材育成

①人材育成プログラムの開発と各種研修の実施

1) 織物技術を次世代につなぐための人材育成（技術継承）

- ・長年丹後地方で培われて来た織物技術や、織機等のメンテナンス技術を包括的に学べる教育プログラムを開発し、後継者、若手職人等を対象に研修を実施。

2) 後継者、若手経営者の育成（経営スキル向上）

- ・経営や営業スキル、財務知識、労務管理等、企業経営に必要な知識を習得し、特に織物産業特有の商習慣、ビジネス環境等を総合的に学べるカリキュラムを開発し、後継者や若手経営者向けの研修を実施。

3) イノベーション促進の為に産学連携プログラムの開発と実施

- ・京都市内大学等との産学連携によるDX対応スキル、イノベーション促進等の研修を実施。
- ・府織物・機械金属振興センターと連携した共同技術開発プログラムの実施。

4) 情報収集、調査研究業務

- ・今後のDXの方向性や新技術（AR、VR、IoT、AI）などに常に注意し、組合事業に取り入れる為の情報収集、調査研究と提言を行う。



5. 重点プロジェクト 5.交流拠点の整備

①丹後と出会える交流拠点の整備

1) 消費者が気軽に訪れる事が出来、丹後織物や商品に出会える場の創出

- ・消費者が丹後の織物商品に直に触れ、購入する事が出来る、組合直営店舗の開設を行い、組合員が作る産地ブランド商品「(仮称) THE RIZE OF TANGO (和装)」、「(仮称) TANGO OPEN CREATIONS (ライフスタイル)」商品を展示販売するや、イベントを実施する事で、BtoCの販路拡大及び、丹後ファンコミュニティの構築を図り、持続的発展につなげる。

2) プロ向けBtoBショールームの開設

- ・バイヤーやデザイナー向けに、丹後の織物がアーカイブされ、展示されているビジネス目的の生地及び商品ショールームの開設。

3) 加工場を活用したオープンファクトリーの開設

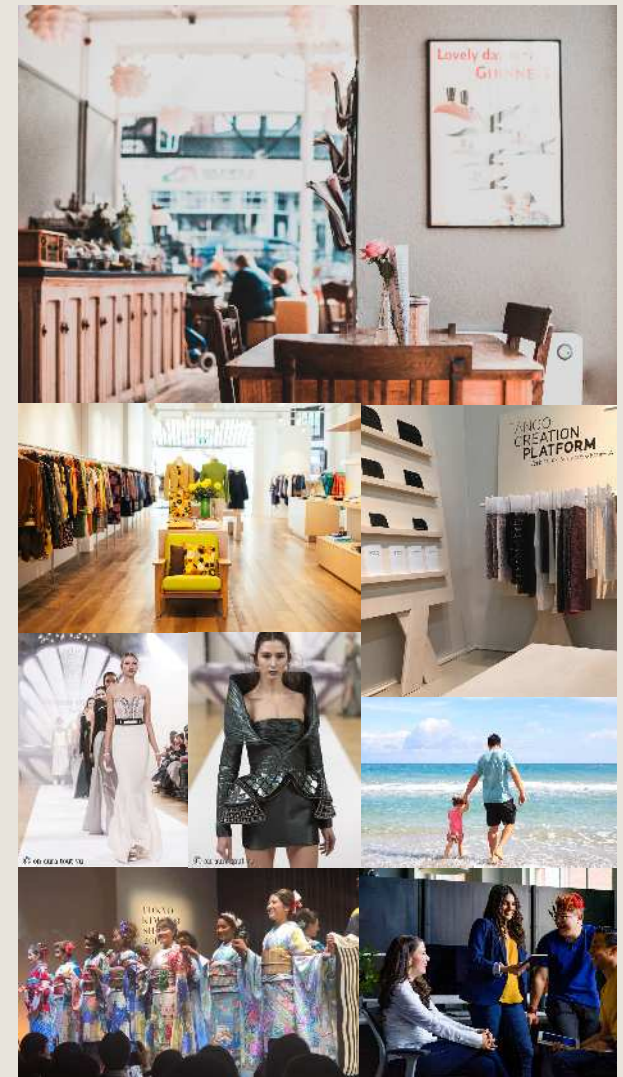
- ・観光客が丹後織物の素晴らしさや技術の高さ等を知る事で、産地ブランドイメージを向上させると共に、クラフトツーリズムとして観光産業と連携し、地域経済の活性化を図る。
- ・バイヤーやデザイナー等プロ向けの商談の中に、現場見学を組み込む事で、織物の価値をより一層訴求し、商談の成約率向上に寄与する。

4) カフェ、飲食店、物販店舗、イベントスペース等、交流施設の開設

- ・来訪者がくつろぎながら、商談や観光、買い物を楽しみながら滞在できる交流施設を開設する事で、産地ブランドの訴求と販売、コミュニティ構築につなげる。

5) 丹後織物博物館開設への働きかけ

- ・300年以上の歴史を誇る「丹後ちりめん」の歴史や、技術、文化等を包括的に展示し、学べる「丹後織物博物館 TANGO TEXTILE MUSEUM」設立へ向けた機運の醸成、関係機関への働きかけを行う。



5. 重点プロジェクト ～新たな産業を創出する拠点施設の整備～

「TANGO OPEN CENTER」拠点施設の開設

◆目的

前述の重点プロジェクトを具体化し、実効性のあるものとする為には、現実の拠点施設の整備が必要であり、組合の総力を挙げてソフト・ハード両面での整備を実施します。

◆理念

丹後ちりめん誕生から300年を迎えた丹後織物産地は、絹織物の産地として1300年以上の歴史を持つ、世界でも希少な織物産地であり、和装文化を支え続けてきました。しかし時代と共に、和装離れが進み、今ではその存続が危ぶまれ、まったく猶予のない状態です。そのような状況下、私たち丹後織物業者は情熱をもって変革を起こし、将来にわたり成長可能な基盤整備を進め、稼げる織物産業を復活する中核施設として「TANGO OPEN CENTER（オンライン/リアル）」の拠点施設開設を目指します。

◆成長可能な方向性

絹織物や和装文化をリスペクトし、最大限これの保存・拡充・継承に努めながら、一方で和装市場に過度に依存する状況を改め、これまで培ってきた技術を活かし、織物を必要とするファッション、インテリアなどの成長するグローバル市場を目指します。

「世界のテキスタイルクリエーション産地」を掲げ、デザイナー、アーティスト、バイヤーなど世界のテキスタイル関係者、クリエイターの丹後への招致を図ると共に、丹後の豊かな自然や歴史と織物を併せた独自性あるブランディングにより、産地ブランドの価値を高め、クラフトツーリズムや農商工連携などを通じて地域産業の振興に寄与し、地域社会の発展に貢献します。

◆オンライン/オフラインを活用した絹織物産業の生産/営業/販売の中核施設へ

Withコロナ時代のデジタル化、オンライン化に一早く取り組み、成長可能な方向性を定着発展させるために、「TANGO OPEN CENTER」では、リアル拠点施設の開設と合わせて組合員のDX化を促進し、生地・商品のWebアーカイブ化と連動したオンライン商談会の開催や商品のEC販売等にも取り組み、国内外のBtoB、BtoC販売を確立し、「稼げる産地」を目指します。

— 「稼げる産地」の拠点施設開設を目指す —

5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

◆位置付け

「世界のテキスタイルクリエイション産地」を目指して、丹後織物業者が情熱をもって変革を起こすべく、将来にわたり成長可能な「稼げる織物産業」の中核施設として「TANGO OPEN CENTER」と称する拠点施設の整備を目指します。

◆主要機能

- ①織物関連加工、産地ブランド商品開発、織物商社設立による販路開拓等を担う「**ものづくり拠点**」
- ②生地アーカイブやショールーム、産地ブランド商品EC、撮影スタジオによるPR等を担う「**情報発信拠点**」
- ③織物ミュージアム、ショールーム、ショップ、カフェを併設した「**交流拠点**」

◆想定する収益源

オンライン/オフラインを駆使した新たなBtoB、BtoC双方の事業収益

①ものづくり拠点

- ・京都府織物・機械金属センターと連携した技術/デザイン開発、アーティストインレジデンス事業
- ・織物加工受注、BtoB商談ショールーム、商談会開催
- ・織物商社開設による国内、海外販路開拓事業（和装・ライフスタイル）

②情報発信拠点

- ・多言語Web、オンライン生地アーカイブ、SNSによる情報発信
- ・ポータルサイト構築、EC販売による販売
- ・オンライン オープンファクトリー（オンライン工房見学・商談会事業）
- ・オンラインサロンによるビジネス創出

③交流拠点

- ・産地ブランドBtoC商品販売店舗及びカフェ等の運営
- ・ファッションショー、セミナー、物販催事等のイベント開催
- ・オンライン/オフラインが融合したイベント、商談会、販売会の運営
- ・TANGO TEXTILE MUSEUM（丹後織物博物館）開設



TANGO OPEN CENTER 施設イメージ



5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

「TANGO OPEN CENTER」拠点施設整備計画案

整備の進め方

ステップ1：TANGO OPEN CENTER オンライン整備

- ・BtoB 生地アーカイブシステム拡充（京都府補助）
- ・BtoC 産地ブランド商品EC販売（京都府補助）

ステップ2：旧和装棟の大規模リフォーム（自主財源）

- ・老朽化した組合本部事務所移転
- ・BtoB ショールーム開設
- ・BtoC 産地ブランド商品販売ショップ開設
- ・撮影スタジオの連携活用
- ・工場内「オープンファクトリー」ルート整備

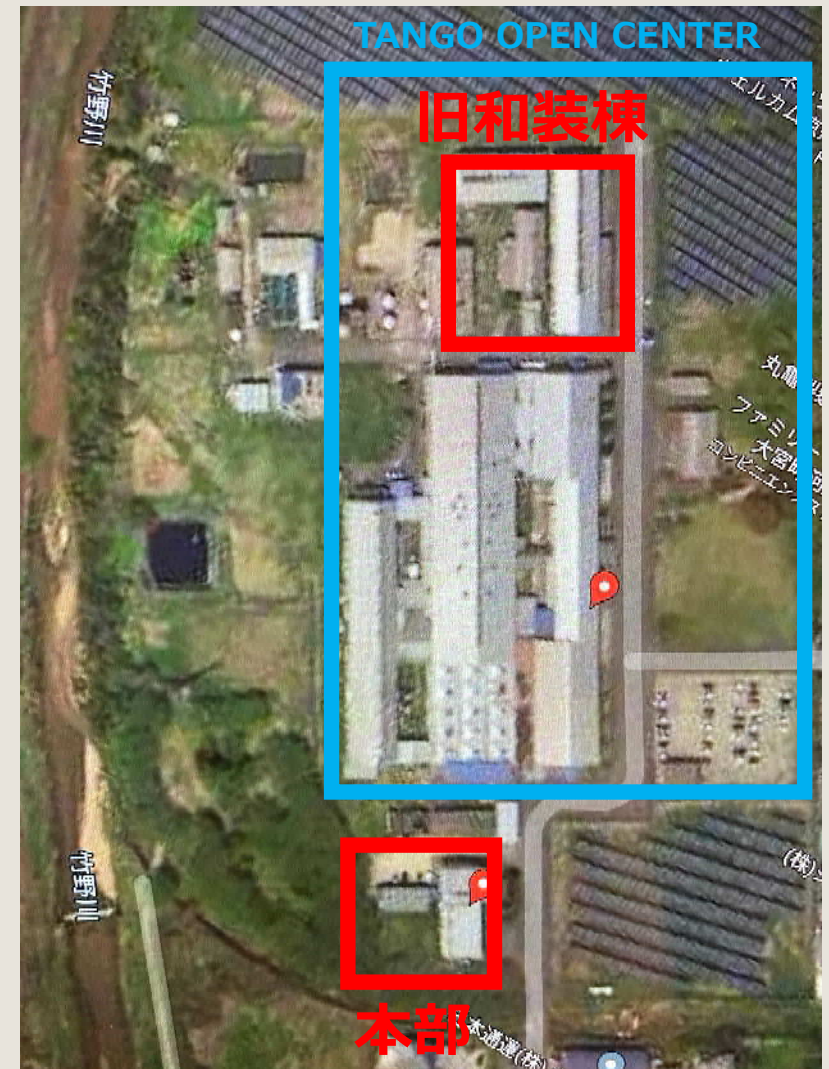
工場ボイラー設備更新（ガス化）

- ・工場機能強化
- ・排熱利用農産物生産（農商工連携活用検討）

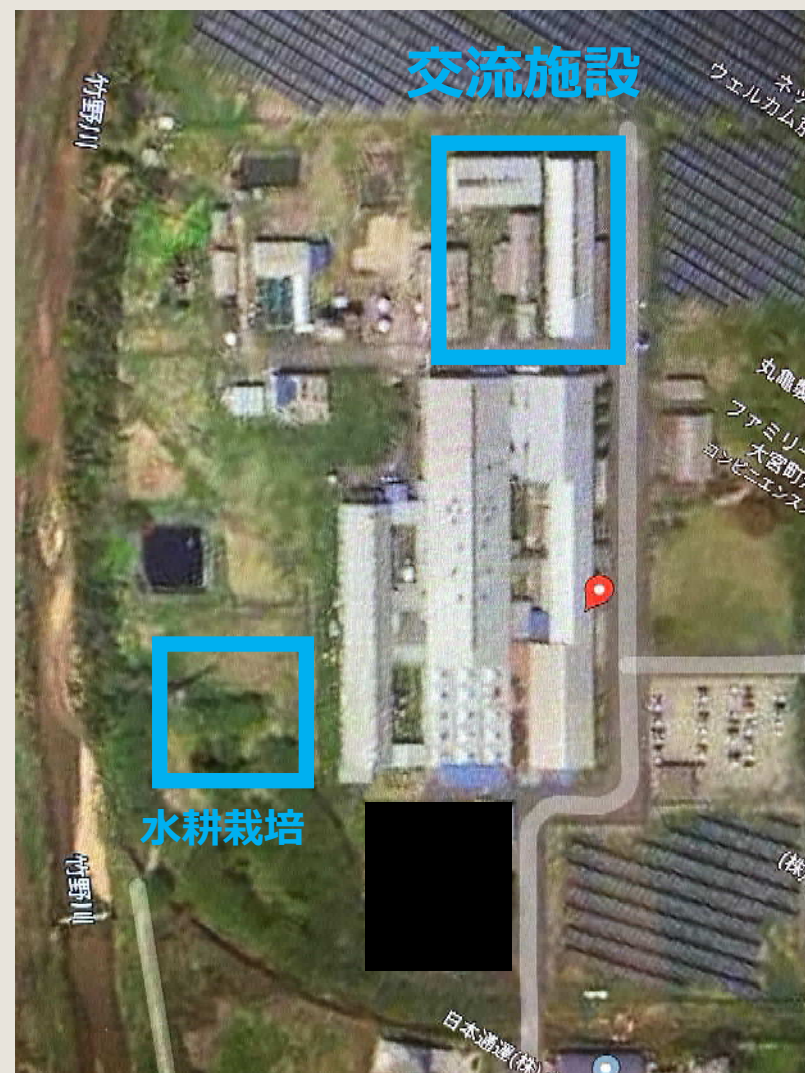
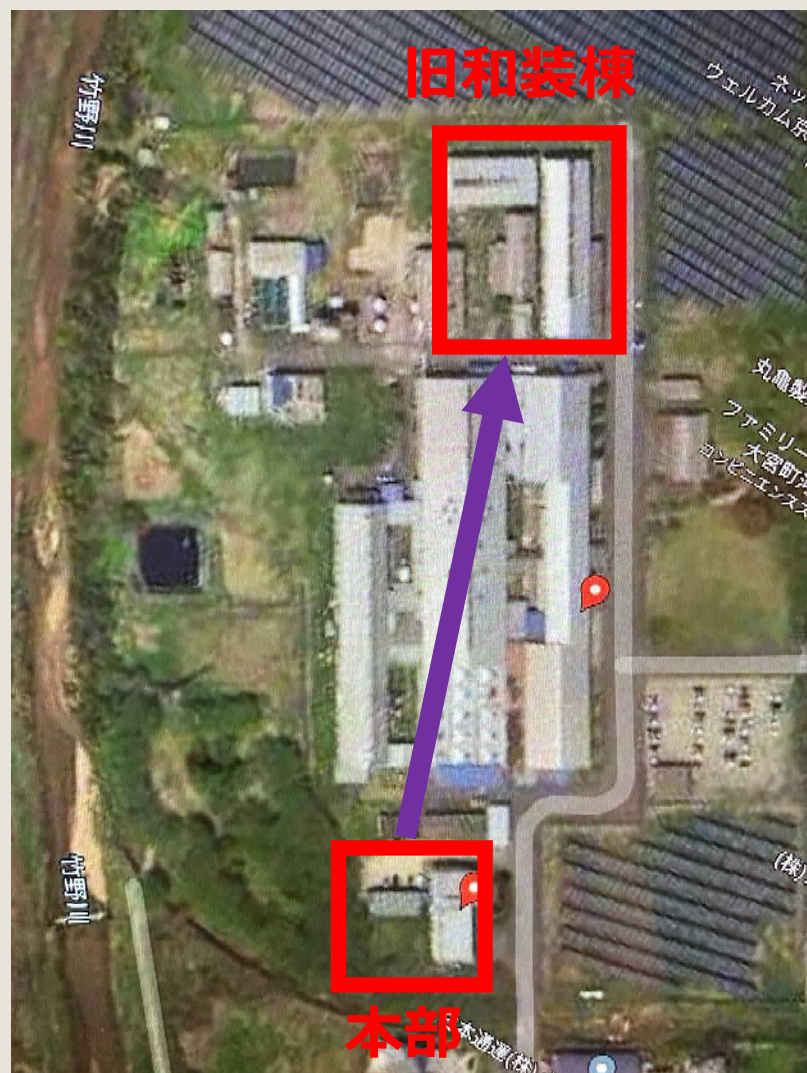
ステップ3：TANGO TEXTILE MUSEUM整備（財源未定）

- ・丹後ちりめん/織物 歴史展示・ブランド力向上
- ・企画展、イベント開催
- ・「観光×ものづくり」産業観光振興

TANGO OPEN CENTER



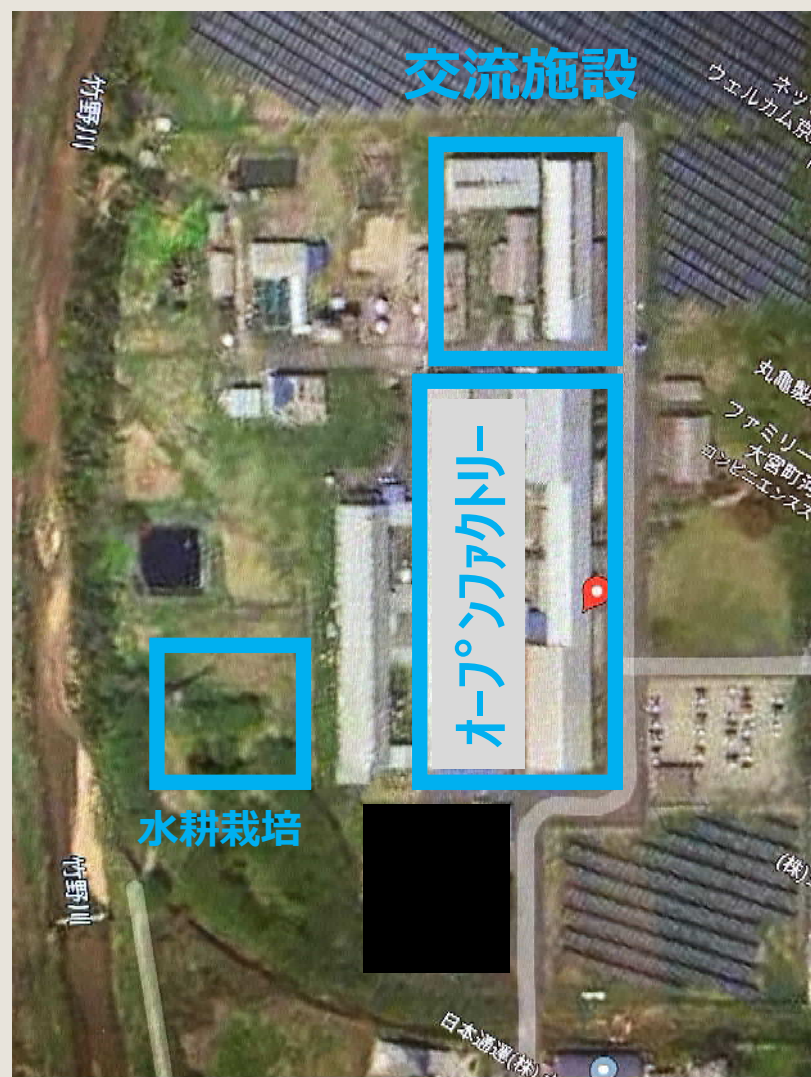
5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～



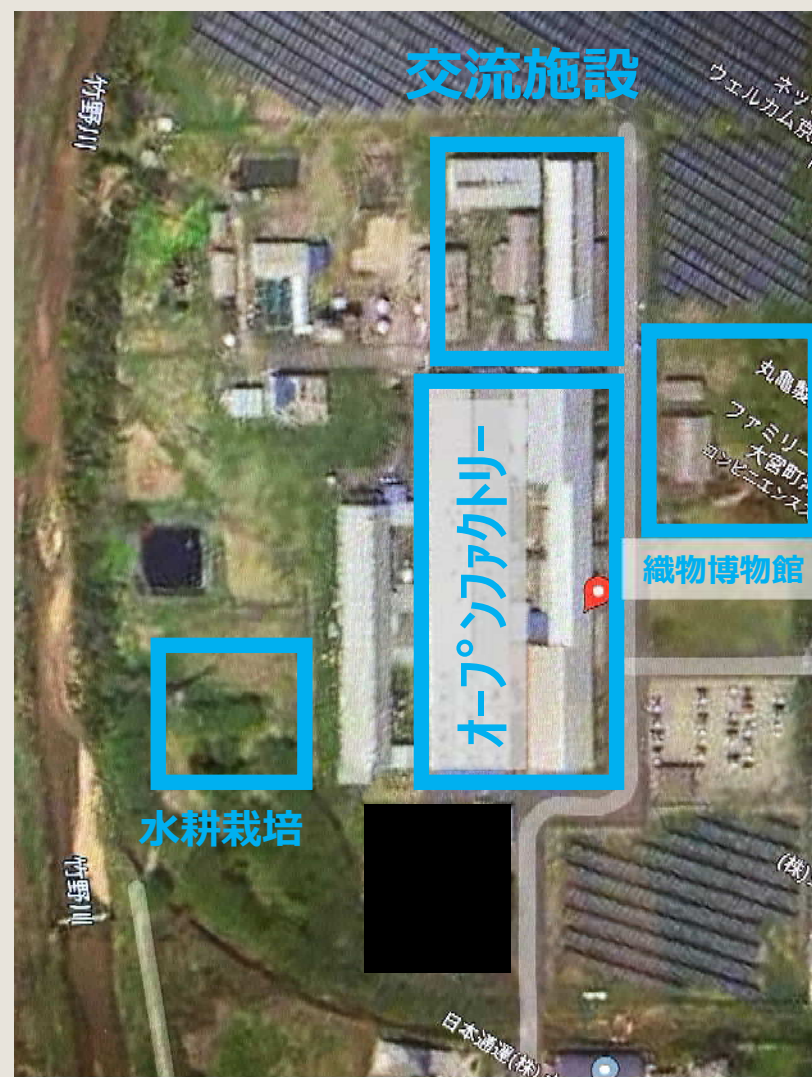
- ・本部機能を旧和装棟内に移転し、大規模改修
- ・「TANGO OPEN CENTER/オンライン」開設

- ・旧和装棟を交流施設としてオープン
- 本部機能＋ショールーム、ショップ、カフェを開設
- ・工場排熱を利用した農作物栽培等農業連携

5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～



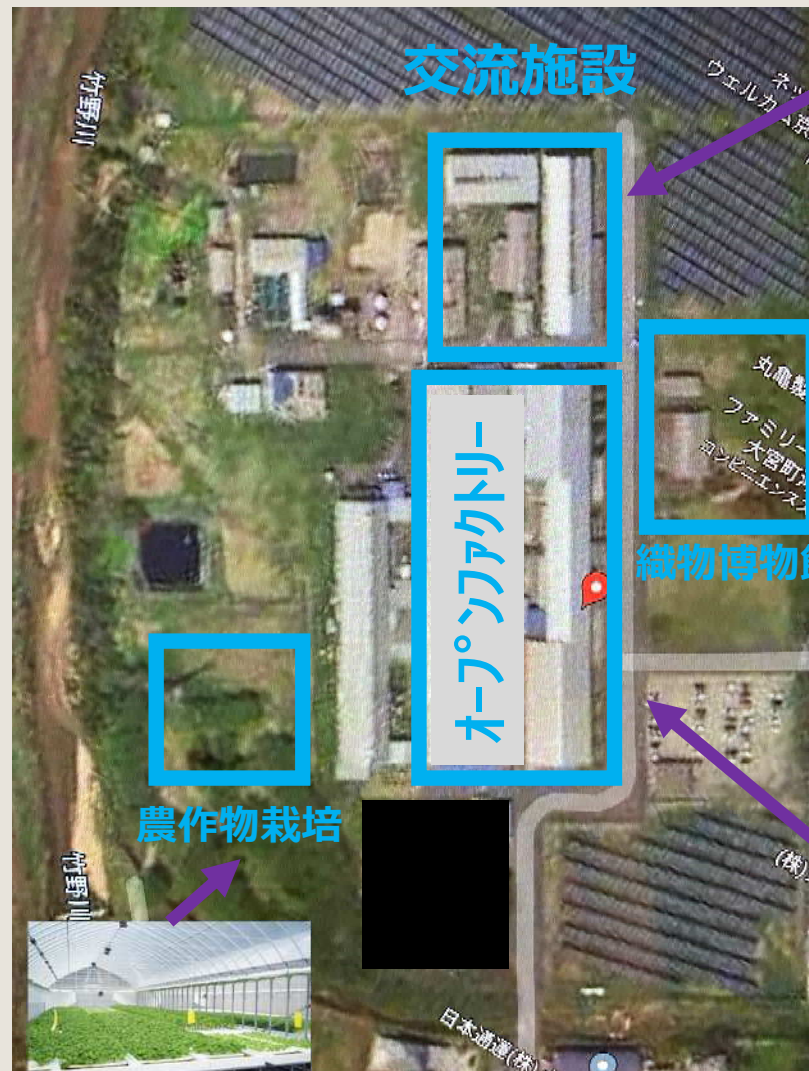
・工場内「オープンファクトリー」ルート整備



・TANGO TEXTILE MUSEUM
(織物博物館) 整備

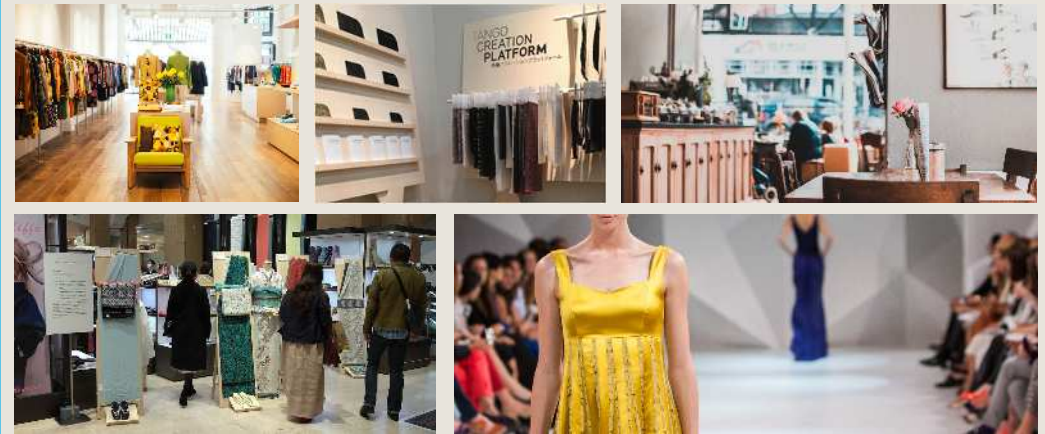
5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

TANGO OPEN CENTER/リアル+オンライン



工場排熱利用

交流施設：ショールーム、ショップ、カフェ、イベントスペース



織物博物館：TANGO TEXTILE MUSEUM



工場：オープンファクトリー



産業×観光拠点



5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

TANGO OPEN CENTERの役割 (リアル拠点)

産地ブランド「THE RIZE OF TANGO (和装)」及び、「TANGO OPEN CREATIONS (ライフスタイル)」直売店舗

- ・旗艦店による産地ブランド商品の販売による売上向上

アーティストインレジデンスの拠点

- ・世界のクリエイターが集う、魅力的なテキスタイル商品の創出

地元産業との交流拠点 (産業観光)

- ・「海の京都DMO」や民間観光産業と提携した産業ツーリズム

地元レストラン・カフェと提携した飲食店の経営

- ・店内装飾にインテリアテキスタイルを使った地元の食材を活かしたレストランの経営 (テナント誘致)
- ・工場排熱利用農作物栽培を活用した「丹後ストロベリー」等の食材を使ったメニューを提供

イベントホール、展示場、コンサート

- ・シルクに関連する、イベントなどの開催、誘致



<https://www.uminokyoto.jp/>

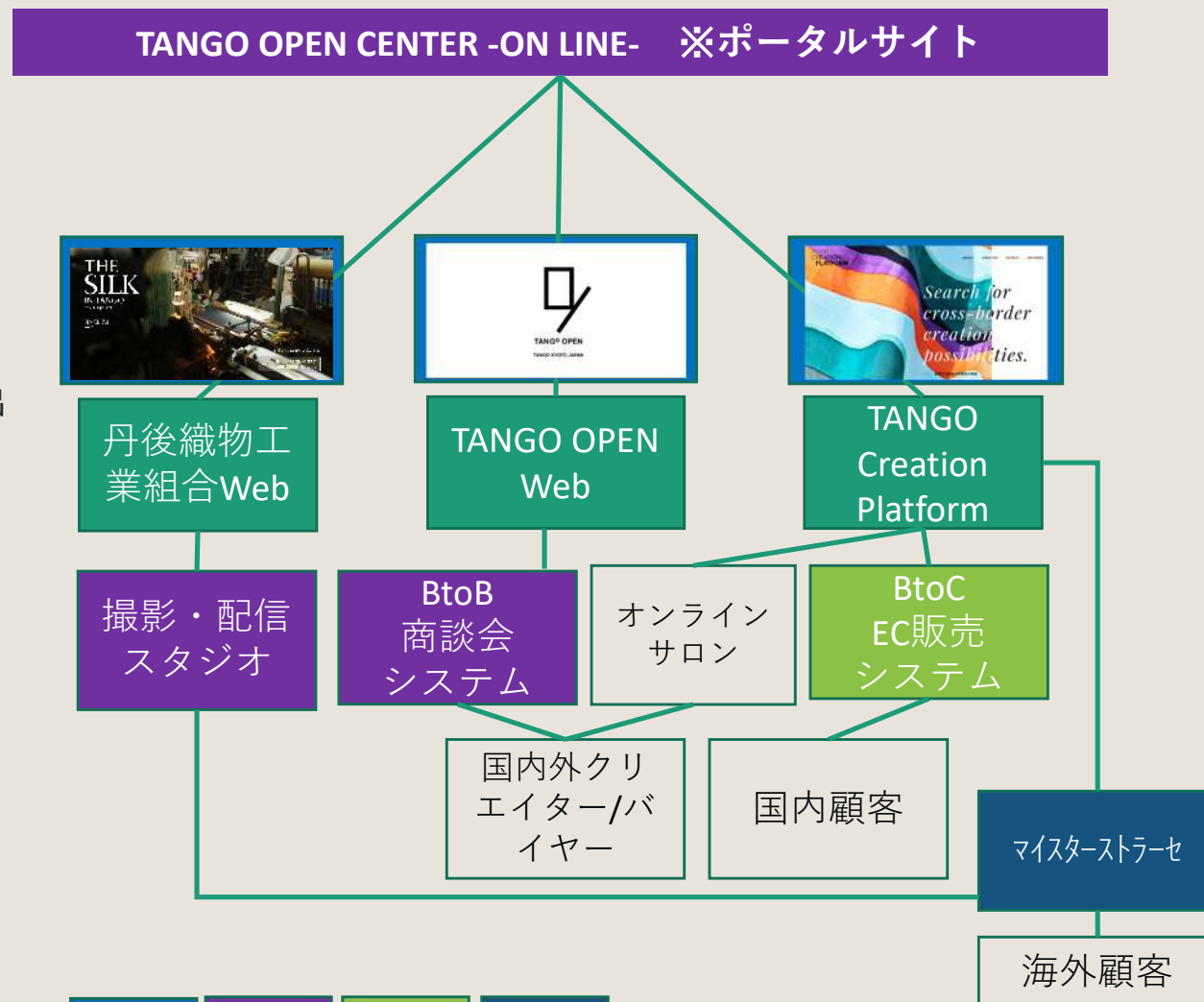


5. 重点プロジェクト ～新たな産業を創出する拠点の整備～

TANGO OPEN CENTERの役割（オンライン拠点）

「TANGO OPEN CENTER – ONLINE-」の構築

- ・リアル拠点と連携するオンライン拠点
- ・様々なWebを統合するポータルサイトの開設
- ・オンライン技術を使った、情報発信、商品販売
- ・オンラインサロン運営による、人材交流、ビジネス創出



※新設・拡充部分は京都府補助活用

既存

新設

拡充

外部

「TANGO OPEN CENTER」の構造と役割 一覧表

リアル拠点：BtoB向け BtoC向け	ショールーム（生地、商品）、生地アーカイブ ショールーム、ショップ、カフェ、ミュージアム
オンライン：BtoB向け BtoC向け	オンラインアーカイブ、オンラインサロン、プロ向けSNS EC、越境EC、一般向けSNS、Youtubeチャンネル



リアル



BtoB



国内デザイナー
バイヤー等

外国人デザイナー
バイヤー等



BtoC



国内
一般消費者



外国人
一般消費者

オンライン



BtoB



国内デザイナー
バイヤー等

外国人デザイナー
バイヤー等



+ EC、越境ECサイト

オンラインイ
ベント



国内
一般消費者



外国人
一般消費者

5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

TANGO OPEN CENTER 関連施設

TANGO TEXTILE MUSEUM（丹後織物博物館）開設に向けて

丹後の織物歴史、文化の保存、継承による付加価値の訴求

- ・300年以上続く、「丹後ちりめん・丹後織物」の歴史を紹介する織物博物館の開設を目指し、地元自治体や京都府、国に働きかけ、日本の絹織物の歴史や、丹後の絹文化の価値を次世代に伝える為の拠点として整備を要望する。
- ・「着物文化」の価値を伝え、「日本の絹織物の中心地」である事をアピールし、丹後全体のブランディングの基礎である、絹織物文化を歴史的、学術的に検証し、資料の収集・展示を行い、貴重な文化的資料を次世代に伝え、顕彰していく。
- ・地元住民や行政機関にも働きかけ、組合が率先して整備運動を進め、組合としては用地提供や、博物館運営等に責任を持ち、持続可能な施設としてTANGO OPEN CENTERと相乗効果を図り、一体運営を目指す。



5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

先進事例「オランダ テキスタイル・ミュージアム」

- ・織物の歴史を展示、ワークショップ、体験、カフェ、ショップも併設した産業観光拠点
- ・企業等との商品開発も担う、クリエイションの拠点
- ・テキスタイルのブランド化、PRの発信拠点



出典：TextielMuseum - Tilburg

5. 重点プロジェクト ～「TANGO OPEN CENTER」の整備～

参考：美術館 建築事例 「十和田市現代美術館」（青森県十和田市）

床面積2,079㎡ 建築費 7.6億円



美術館名	建築工事費（約）	敷地面積（㎡）	床面積（㎡）	開館年
金沢21世紀美術館	200億円	26,964.50	27,920.00	平成16年
青森県立美術館	110億円	129,536.37	15,837.41	平成18年
十和田市現代美術館	7.6億円	4,358.46	2,078.38	平成20年
大分県立美術館	80.4億円	13,595.00	16,769.00	平成27年
富山市ガラス美術館	182億円	4,144.67	26,792.82	平成27年
富山県美術館	76億円	12,548.00	14,990.00	平成29年
東広島市立美術館	16億円	1,800.00	2,500～3,000	平成32年度
八戸市新美術館	32億円	6,824.00	4,500.00	平成32年度
鳥取県立美術館	77億円	22,060.00	9,910.00	平成36年度

出典：十和田市現代美術館 | Towada Art Center

5. 重点プロジェクト ～共同運営又は業務委託先候補～

道の駅「丹後王国」等の運営実績を有するパソナグループ（株）丹後王国ブルワリー

2015年にリニューアルオープン後は、年間30万人以上が来場する丹後地方の人気スポットとなった道の駅「丹後王国」運営実績を有する（株）丹後王国ブルワリーに「TANGO OPEN CENTER」の開設、運営に協力を依頼。同社の有する食品開発、販売ネットワークとも連携し、加工場産出セリシン及び排熱を利用した水耕栽培等を利用したシルクマンゴー等特産品の開発、販売にも取り組む事を検討。

Tango Kingdom Brewery Inc.

プレスリリース | リポート | アクセス | English

ホーム お知らせ 事業案内 製品・取扱い産物 お取扱店舗 企業情報 お問い合わせ ホテル丹後王国 オンラインショップ



丹後地域の活性化をめざして
Regional activation



株式会社丹後王国ブルワリーとは
Tango Kingdom Brewery

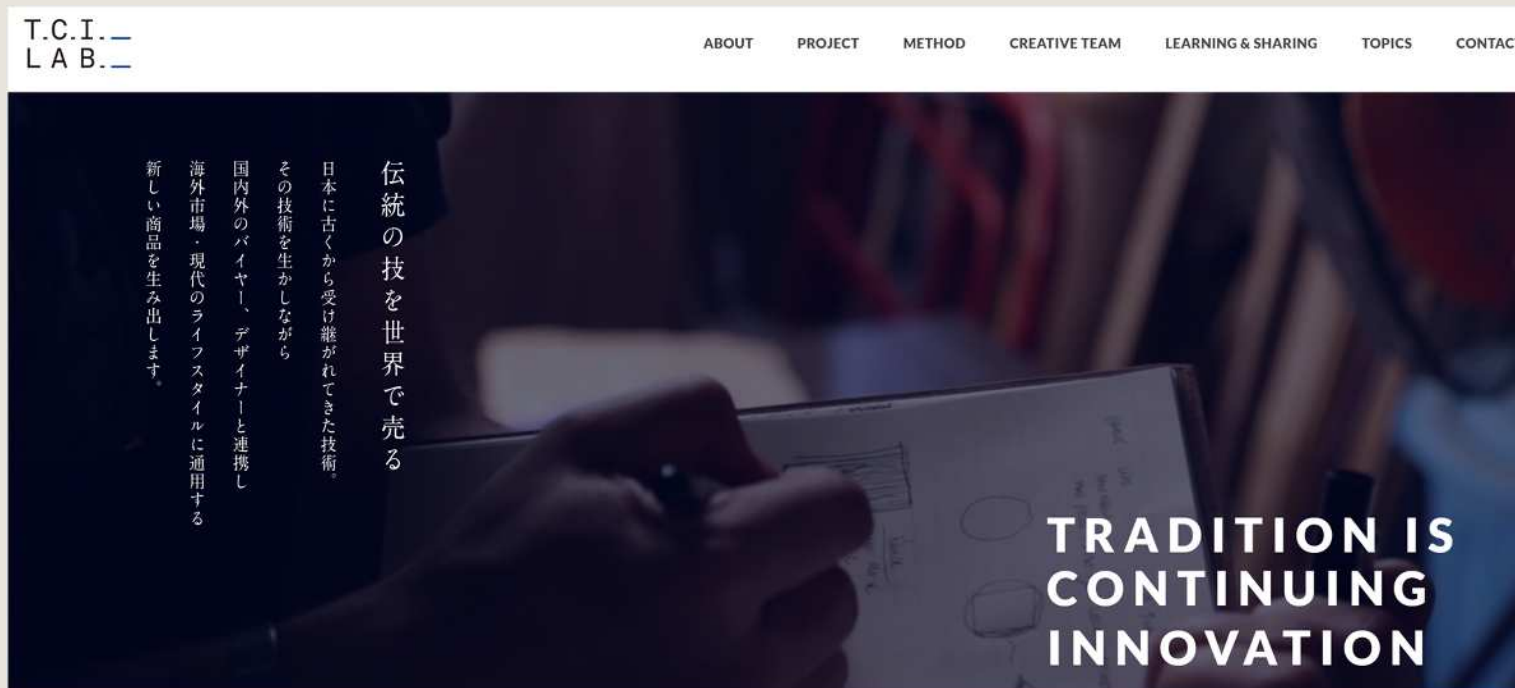
株式会社丹後王国ブルワリーは、丹後地域商社として、地域産品・資源のマーケティングを行い、商材・販路・サービス・物流を開拓する企業です。また、自社開発製造の自家製品（クラフトビールやソージなど）の卸・販売や地域観光誘客活動を通して、広く地域情報を発信しています。

会社名	株式会社丹後王国ブルワリー（Tango Kingdom Brewery Inc.）
設立	2018年9月3日
代表者	代表取締役社長 中川正樹
資本金	100,000,000円
本住所	京都府京丹後市弥栄町鳥取123番地
事業内容	●自家製品の製造・販売 ●地方創生 パブリック事業／地域商社事業／地域活性化事業 ●ホテル事業 ホテル丹後王国 ●EC事業 ●アンテナショップ運営 ・京都錦市場 丹後TABLE ・京都丹後鉄道 天橋立駅1F Seaside Bar ・道の駅 丹後王国「食のみやこ」内 お土産処「丹後匠庵」 ・丹後の食をお届けする通販サイト 丹後王国こだわり市場 https://tango-kingdom-onlineshop.com/ ●その他 【勤労取り扱い業に関する表示】 ●東京部門 ・丹後アンテナショップ「御食国」の運営・文化発信・地域PR事業

5. 重点プロジェクト ～共同運営又は業務委託先候補～

株式会社日吉屋 TCI研究所

京都を中心とした全国の伝統産業プロデュースに実績のある同社は、近畿経済産業局「TANGO CREATION PLATFORM」事業や、京都府染織工芸課「Some & Ori」プロジェクト、京都府丹後振興局「TE・ORI」事業、京都府コロナ社会対応ビジネスモデル創業事業（オンライン商談システム開発、国内外販路開拓事業）等の事業を通じて丹後織物の振興に協力して来た。同社の企画力、商品開発・国内外販路開拓実績等を活用し、「TANGO OPEN CENTER」事業構想、企画、運営に協力を依頼。



6. 誇りをもって「織物と共に生きる地域」の創出

地域文化に誇りを持ち、将来に夢を持って生きる事ができる産業と雇用をつくる

「日本の着物」文化を再定義、リブランディングし発信

- ・歴史や伝統は尊重しながら、「今」と「これから」を生きる世代が魅力的に思える「新たな和装文化」を再構築
- ・DX技術を活用して、オンラインを活用し世界に発信

「産業×観光」施策による流入人口、交流人口を拡大

- ・織物産業は「作る産業」という概念を打破。魅力的な資産を最大限活用し、周辺に存在するポテンシャルの高い「観光関連産業」と連携し、賑わいと活力を創出
- ・国内外からの観光客に対して「クラフトツーリズム」を積極的に展開、「TANGO OPEN CREATIONS」をはじめ、リブランディングされた「着物、和装関連」商品も合わせた販売で収益を上げ、雇用を拡大

「郷土愛」「国際化」を育む機会の創出

- ・「世界から人が集まる地域」である郷土に誇りを持つ機会を創出し、子供たちや若年世代に郷土の魅力や価値を認識できるイベントやフェスティバル、体験教育、交流教育を実施
- ・短期就労やインターンシップ等の積極的な受入
- ・U I J ターン希望者との交流機会の創出
- ・海外クリエイティブ人材の受け入れ、就労機会の創出

6. 誇りをもって「織物と共に生きる地域」の創出

先進事例「フランス・リヨン」「イタリア・コモ」

産地のテキスタイル産業と観光が融合した産業観光都市



7. 地域の多様な産業との連携

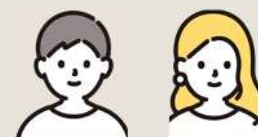
- ・ TANGO CREATION PLATFORM で培った国内外の人材をオンライン/リアルでネットワーク化
- ・ 国内外の多様な人材が丹後に集い、地域イノベーションを活性化するプロジェクトを同時多発的に行い、新たなビジネスを創出します。
- ・ 地元産業（観光、宿泊、飲食、農業、漁業、サービス業等）と連携した産業振興



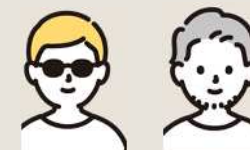
丹後織物工房



観光/宿泊/飲食
農業/漁業/サービス業



国内デザイナー
バイヤー等



外国人デザイナー
バイヤー等



TANGO OPEN CENTER（オンライン/リアル）を活用した、新たなビジネス環境の創出

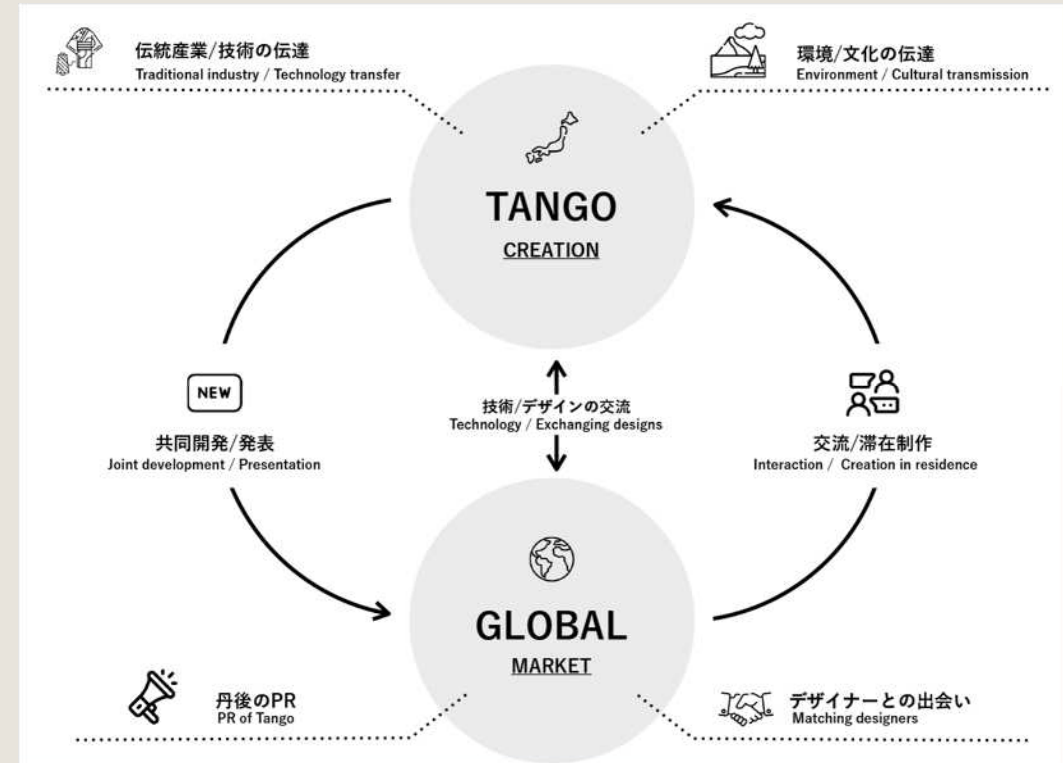
8. アーティストインレジデンス

「TANGO CREATION PLATFORM」の継続的取り組み

2019年よりスタートした「TANGO CREATION PLATFORM」は、丹後が持つ様々な魅力を外に開くことで新たな地域の可能性を模索するプロジェクトであり、「丹後ちりめん」と世界で活躍するクリエイター/デザイナーが滞在と交流を通じ、新たな領域の丹後ちりめん商品の開発が進んでいる。

この取り組みに継続して取り組み、魅力ある産地ブランド商品「TANGO OPEN CREATIONS」コレクションを開発し、産地自らをブランド化し、最終消費者向けの商品の販売に繋げる。

2022年も引き続き、コロナ禍の影響により実行困難な状況は続くが、オンライン技術を駆使して取り組みは継続し、コロナ禍後の、リベンジ観光も視野に入れ、持続可能な商品開発→インバウンド観光→海外販売のエコシステムを構築し、産地のブランド価値向上と利益率の向上、直販出口を確立し、自ら稼げる産地への転換を図る。

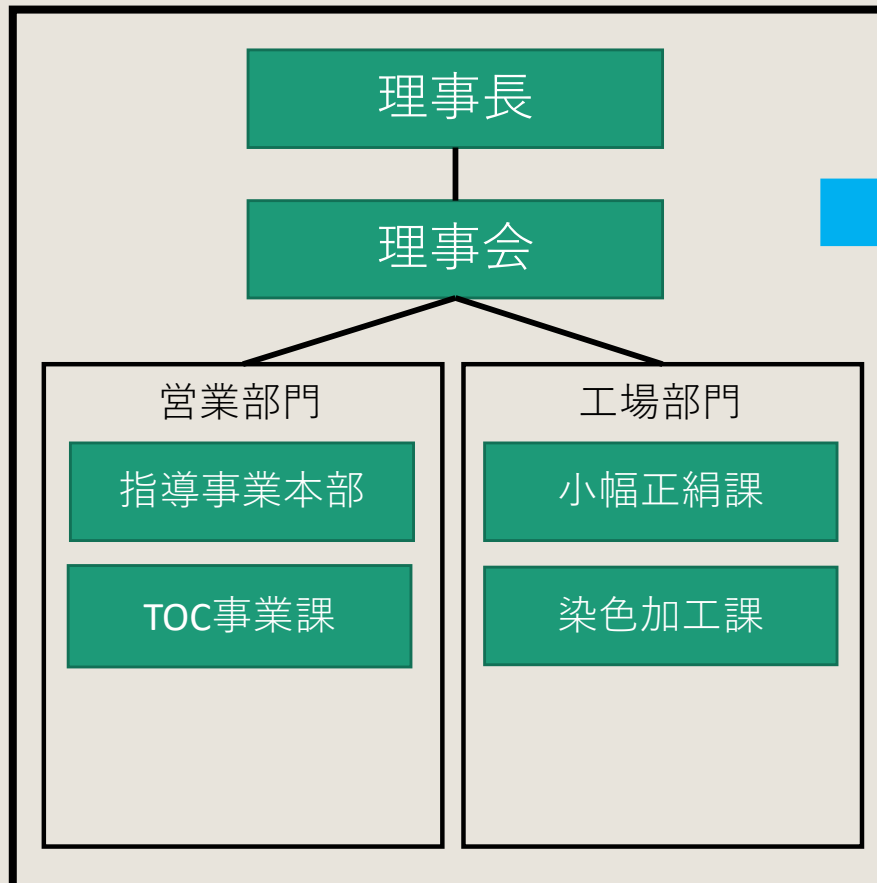


9. 丹後織物工業組合のあるべき姿

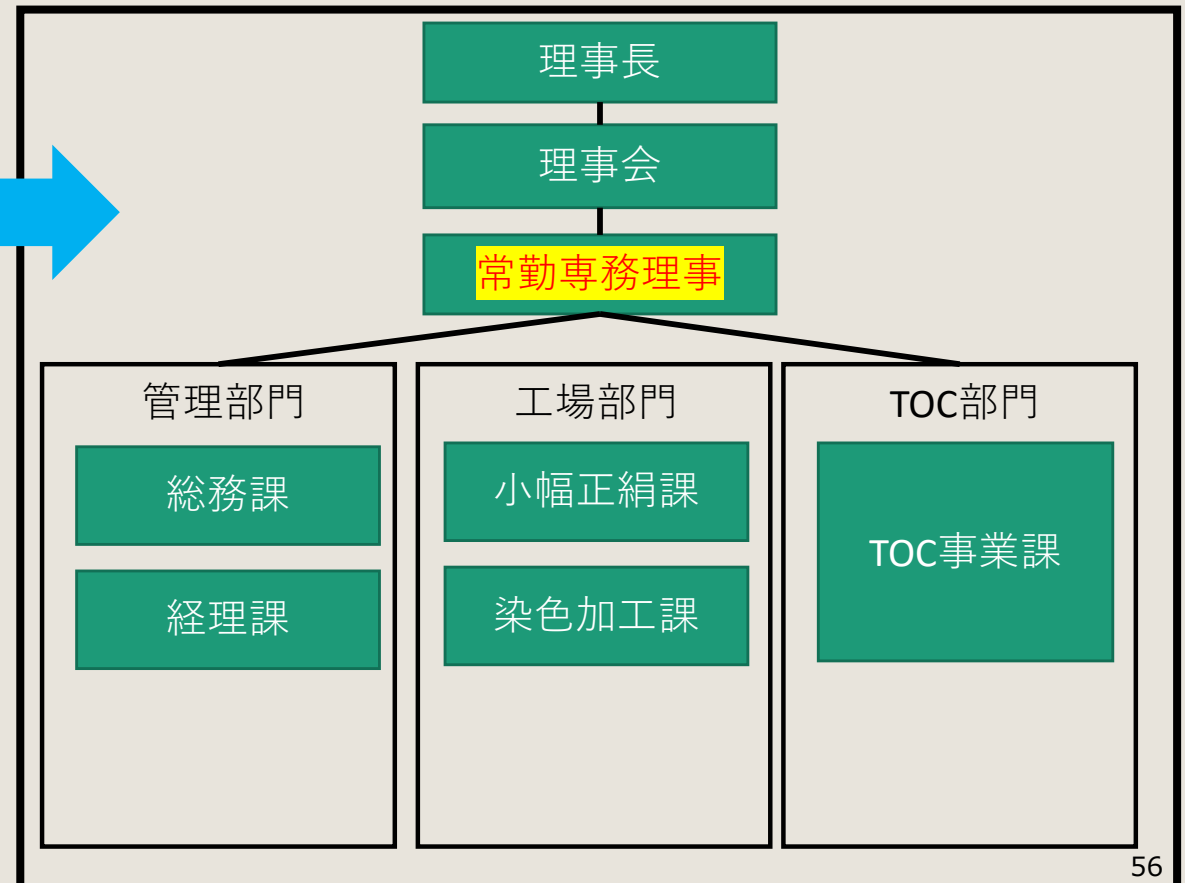
組合組織の活性化と、改革を強力に推し進める為、しがらみのない外部人材を常勤の専務理事として起用し、強力な権限と理事会のサポートのもとに、各部門の損益管理、営業促進、効率化推進を数値目標を用いて推し進める。

・各部門（管理、工場、TOC）に責任者を配置。常勤専務理事の指揮下に、各部門の目標を毎年設定し、マネジメントを行う。

現状組織図

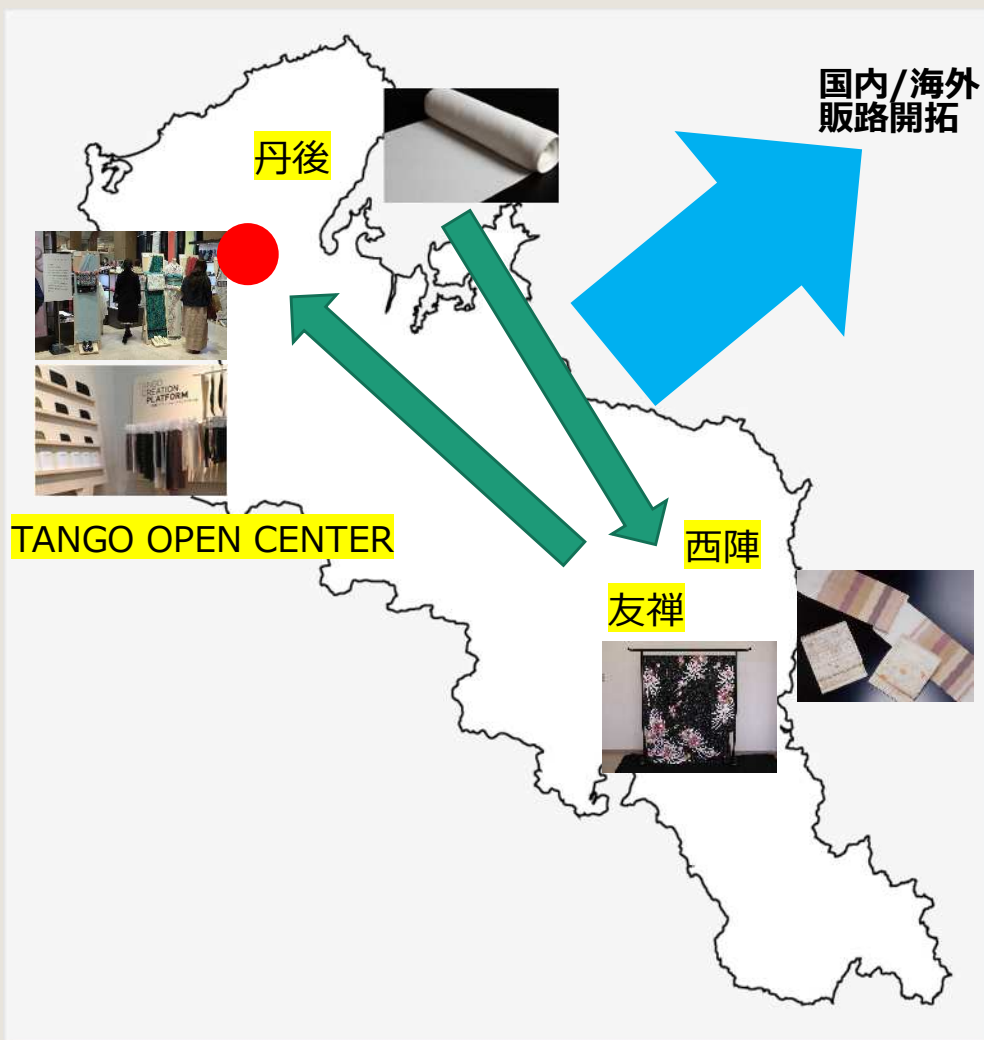


将来組織図



10.シルクテキスタイル・グローバル促進コンソーシアム 3産地連携

経済環境は今後益々厳しくなり、既存の流通システムに頼るだけでは、先細りが避けられない。京都府全体を1つの産地として捉え、和装産業で関係性の深い3産地が連携して新たなビジネスを構築し、Win-Winの関係を構築。連携を深める事で効率化とイノベーションを促進し、協力して国内外の販路を開拓する。



「KYOTO BRAND」として、3産地で連携した商品開発、展示会出展、販路開拓を行う

3産地が連携することにより、和の文化力や技術を生かし、世界のニーズに応えられる魅力ある商品づくりを展開し、さらには直接バイヤーと商談できる力を養い、シルクテキスタイルの世界的な産地となることを目指す。

- 1) ものづくり体制再構築に関する検討
- 2) 国内外販路開拓
 - ・建材・インテリア市場参入事業
 - ・ハイファッション市場参入事業（ジェトロ連携）
 - ・ビジネスマッチング支援事業（ビジネスガイド社）

「TANGO OPEN CENTER」内ショップ及びイベントスペースにて、販売機会を創出

- ・丹後（生産地）→西陣/友禅（最終製品化）→丹後（TOC販売）
- ・丹後地方で生産される白生地を元に、西陣/友禅 産地で加工、縫製、最終製品化した商品をTOC内で販売する事により、相乗効果を図る。

11. 事業推進体制

持続可能な織物産地としての丹後地方を実現



事業主体：丹後織物工業組合

共同運営又は業務委託先：民間企業等

産地支援：国、府、地元自治体



株式会社丹後王国ブルワリーとは
Tange Kingdom Brewery

株式会社丹後王国ブルワリーは、丹後地域振興として、地域産品・資源のマーケティングを行い、商材・販路・サービスを開拓
する企業です。また、地元産品製造の振興（クラフトビールやソーラージュ）の振興・販売や地域活性化活動を通して、広く地域振
興を推進しています。



12. 事業計画 ビジネスプラン 収支計画

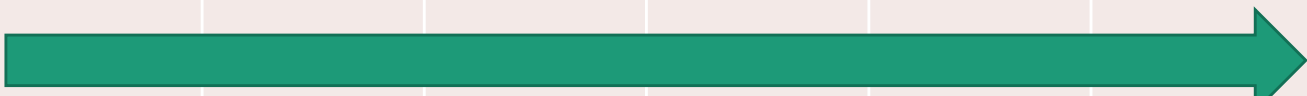
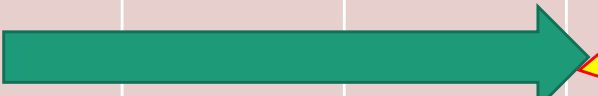
事業計画収支計画要旨

- ・精練加工料をR4年度時点で値上げ検討し、工場部門単独での黒字化を目指す
- ・TANGOブランドを更に発展させ、地域経済にも寄与する為には、織物ミュージアムの追加設立が必要。
※設立には自己資本だけでは無く、京都府、京丹後市等周辺自治体にも協力を要請。
※組合所有地を提供し、建物建築費等の支援を要請し、運営は組合が責任を持って実績ある企業に委託する。
- ・和装需要が劇的に向上しない限り、長期的には産業構造の転換が必須。

事業計画結論

現状の精練加工を主体とした組合員に対する加工業から、稼げる工場・組織へ変革し、京都府、地元自治体、国等地域行政機関、民間企業等に協力を要請しながら、「TANGO OPEN CENTER」事業を実現し、「ものづくり×観光」を積極的に推進する事が望ましい。

13. スケジュール

	2022	2023	2024	2025	2026	2027
組合産業振興プランの策定						
組織改革、加工賃改定（検討）						
自治体・3産地連携強化 加工営業、生地販路開拓						
TANGO OPEN CREATIONS 商品の 拡充						
TANGO OPEN CENTER 拠点施設開設・拡充						
丹後織物博物館開設陳情						
大阪・関西万博 関連事業準備・実施						

14. 統計資料

A - 5	丹後産地の概要
A - 6	生産高推移・後染
A - 7	生産高推移・先染
A - 8	生糸消費量
A - 9	紋無地別生産数量
A - 10	後先別稼働織機台数
A - 11	部門別稼働台数
A - 12	紋・無地織機台数
A - 13	先染織物織機台数
A - 14	小物織機台数の推移
A - 15	市町別事業所・織機台数
A - 16	町別後先別男女別従業者数
A - 17	町別年代別従事者数

14. 統計資料

A-5 丹後産地の概要

産地の概要

丹後産地は全国でも有数の絹織物産地で、和装用白生地(表地)の生産においては全国シェア約70%を誇っています。また、生糸の消費量においても全国で消費される量の約3割(全国1位)を和装地・洋装地に使用しています。丹後産地の主な生産品目は和装用白生地、帯地、服地、和装小物。

白生地織物は、無地織物とジャカード機により生地面に柄を配した紋織物とに区別され、主な製織品種は「変り無地・変り三越ちりめん」「紋意匠ちりめん」の2品種で、令和2年の生産量全体の7割弱を占めています。その他、長襦袢地、振袖用素材として金糸・銀糸を織り込んだ金銀通しちりめんなどがあります。

また、京都西陣の生産基地として帯地・ネクタイ地など先染織物を製織しており、組合員数の7割弱が先染織物の製造業者で、その内の8割強が帯地(袋帯・名古屋帯・黒共帯など)を製織しています。

この他、衿地・帯揚地・風呂敷地などの和装小物織物や、総合産地化を目指すなかで洋装分野への進出を図った広幅の服地織物も生産しています。原料も生糸だけではなく、ポリエステル・レーヨンなど多種多様に丹後ちりめんの伝統的技術を生かした製品作りを行っています。

これら織物は常に消費者が求める素材開発に努め、またその製織技術、製品の市場性などを競う「丹後織物求評会」を年に一度開催し、活発な商談も行っています。

また、原料である生糸に特殊な加工を施した製品や、絹がもつ風合いはそのままに生地の防縮・耐スレ加工を施すなど高付加価値化、差別化した製品を市場に送り出しています。

一方、丹後ちりめんを精練した後の溶液中から、人間の生理作用に極めて有能な性質をもつ物質「セリシン」の抽出に成功し、自然・健康志向が強まるなか、基礎化粧品や入浴液などに配合し「きぬもよふ」・「まゆのお風呂」ブランドで全国の呉服店を中心に販売しています。

組合員及び設備台数の動向

丹後織物工業組合の組合員数は令和2年12月末で663軒と、2年前と比べ96軒減少しています。

また、従事者の高齢化・後継者不足から、組合員の家族従事者の平均年齢は68.7才と前回調査時(H30)より1.0才上昇しています。また、一軒あたりの家族従事者数は1.61人と中小零細な業者がほとんどを占めます。

組合員の稼働織機台数は後染1,006台(30年対比▲162台)、先染1,225台(同▲102台)の合計2,231台、休止台数は619台となっています。一軒あたりの織機保有台数は4.20台、保有台数5台以下の組合員事業場が81.6%を占めています。

生産動向など

令和元年は、「令和」の新しい時代を迎え日本経済は比較的堅調に推移していましたが、12月に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和2年4月には緊急事態宣言が発令されるなど人や物の流れが止まり、観光業を中心に大きく停滞しました。和装業界においては催事の延期や中止に追い込まれ、商況はより一層深刻な状況となりました。丹後産地の白生地織物生産量も令和元年は25万3千反で前年より3万反ほどの減産で推移しましたが、令和2年は15万4千反と大幅な減産になりました。

こうしたなか、令和2年に丹後ちりめん創業300年を迎え、「丹後ちりめん創業300年事業実行委員会」を中心に、国内外へ向けた販路開拓事業や国内外学生とのコラボ事業、「TANGO OPEN」ロゴマーク活用事業など様々な事業が展開されました。

また、京都市内で開催してきました丹後織物求評会を「SILK WEEKS TANGO | TANGO TEXTILE EXHIBITION」と銘打ち、21年振りに丹後で開催しました。

14. 統計資料

A－6 丹後産地後染織物（絹及び人織）生産高推移（推定）

金額単位：千円

品 種 別	暦 年	絹、人織別	H29		H30		R元		R2	
			生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額
一 越 ち り め ん		絹（反）	1,440	9,363	1,530	17,300	1,267	16,159	571	6,540
変 無 地 ち り め ん		〃	49,134	294,804	48,047	592,138	41,188	578,046	22,509	273,181
紬 ち り め ん		絹紡（反）	2,826	28,260	2,798	49,410	2,358	46,487	1,535	26,522
パ レ ス		絹（反）	8,754	52,524	8,192	83,816	5,532	65,938	3,040	31,565
綸子ちりめん（軽目）		〃	29,638	161,788	25,033	271,328	21,159	270,922	12,152	142,178
〃 （重目）		〃	38,606	293,272	32,504	392,935	30,344	411,584	23,319	289,045
紋 意 匠 ち り め ん		〃	145,530	1,091,480	144,762	1,868,553	134,772	1,915,931	78,041	1,004,704
紋 紹 ・ 紋 紗		〃	13,493	175,409	14,031	252,893	11,986	224,010	6,950	114,709
そ の 他 紋		〃	1,564	14,076	1,644	21,690	2,184	30,946	2,610	31,897
縫 取 ・ 金 銀 通 し		〃	15,046	137,188	14,607	227,719	10,529	173,882	8,181	119,095
風 呂 敷 ・ 兵 児 帯 地		〃（㎡）	44,686	93,902	20,534	46,866	20,369	44,395	15,809	30,765
衿 地		〃（反）	10,235	61,410	9,265	105,365	8,580	111,196	4,959	57,409

14. 統計資料

品 種 別 \ 暦 年	絹、人織別	H29		H30		R元		R2	
		生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額
帯 揚 地	絹（反）	30,958	170,272	31,872	348,141	32,369	404,487	22,046	246,093
服 地 他	〃（㎡）	27,403	54,806	26,719	91,857	38,722	142,761	45,091	150,234
（ 後 染 正 絹 小 計 ）	（㎡）	72,089	2,638,554	47,253	4,370,011	59,091	4,436,744	60,900	2,523,937
	（反）	347,224		334,285		302,268		185,913	
風 呂 敷 地	人織（㎡）	227,066	125,050	177,966	98,010	176,531	97,219	132,682	73,070
服 地	〃	251,375	120,660	206,186	119,041	133,702	86,908	39,284	25,535
き も の 地	〃（反）	5,271	10,542	5,275	45,475	5,437	67,967	1,564	19,550
衿 地	〃	4,789	11,975	5,141	19,738	4,890	22,493	4,200	19,319
帯 揚 地	〃	1,537	4,611	1,842	11,421	2,452	15,202	346	2,145
（ 後 染 人 織 小 計 ）	（㎡）	478,441	272,838	384,152	293,685	323,012	289,789	178,076	139,619
	（反）	11,597		12,258		12,779		6,110	
合 計	（㎡）	550,530	2,911,392	431,405	4,663,696	382,103	4,726,533	238,976	2,663,556
	（反）	358,821		346,543		315,047		192,023	

注：生産金額は推定金額

14. 統計資料

A－7 丹後産地先染織物（絹及び人織）生産量・生産高推移(推定)

金額単位：千円

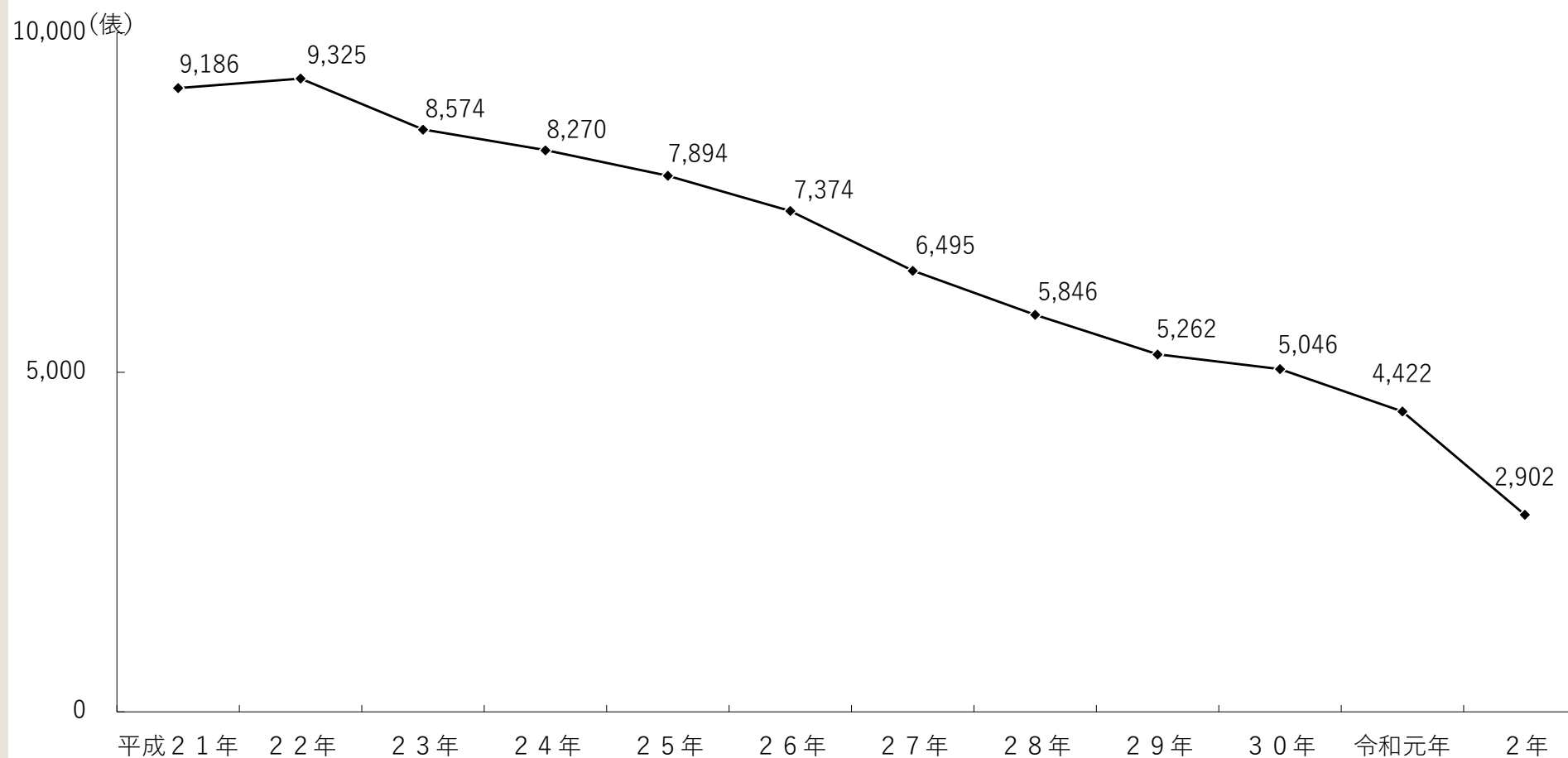
品 種 別	暦 年	絹、人織別	H29		H30		R元		R2	
			生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額
ウールお召		毛（反）	0	0	0	0	0	0	0	0
打掛		絹（反）	1,452	58,080	1,503	60,790	1,417	57,957	1,100	44,055
コート地		〃	144	360	0	0	0	0	0	0
その他着尺		〃	33,527	83,822	29,262	74,588	26,571	69,084	19,221	49,232
袋帯		〃（本）	120,367	722,202	106,923	652,076	100,290	621,798	74,196	451,562
引箔帯		〃	2,800	33,600	1,905	23,145	1,890	23,246	1,467	17,645
黒共帯		〃	9,089	22,725	3,743	9,537	3,450	8,969	2,474	6,337
その他帯		〃	49,172	245,860	43,529	219,811	40,545	206,781	28,876	144,050
家具用裂地		〃（㎡）	72,382	125,884	61,811	111,974	61,313	115,513	47,584	86,983
金欄		〃	164,208	197,048	168,046	210,056	167,869	218,231	124,363	156,856
ネクタイ・マフラー		〃	123,050	246,102	113,563	294,827	110,504	322,311	80,849	233,200
インテリア		〃	7,713	13,415	5,885	10,663	5,791	10,909	4,532	8,285
服地		〃	31,801	33,180	14,262	15,191	14,147	15,377	10,963	11,730
（先染正絹・毛小計）		（反）	615,705	1,782,278	30,765	1,682,658	533,787	1,670,176	395,625	1,209,935
		（本）	181,428		156,100		146,175		107,013	
		（㎡）	399,154		363,567		359,624		268,291	

14. 統計資料

品 種 別 \ 暦 年	絹、人織別	H29		H30		R元		R2	
		生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額	生産数量	生産金額
そ の 他 帯	人織(本)	464	1,162	429	1,075	426	1,067	327	820
家 具 用 裂 地	〃 (㎡)	60,616	70,277	58,192	67,469	57,031	66,125	44,249	51,303
金 欄	〃 (㎡)	112,145	97,522	110,336	95,950	93,562	81,357	66,931	58,200
ネ ク タ イ ・ マ フ ラ ー	〃 (㎡)	27,734	36,974	28,630	38,168	28,399	37,860	22,049	29,396
イ ン テ リ ア	〃 (㎡)	10,937	6,344	4,311	2,504	4,276	2,483	3,293	1,911
服 地	〃 (㎡)	27,313	9,500	0	0	0	0	0	0
(先 染 人 織 小 計)	(反)								
	(本)	464	221,779	429	205,166	426	188,892	327	141,630
	(㎡)	238,745		201,469		183,268		136,522	
合 計	(反)	615,705		30,765		533,787		395,625	
	(本)	181,892	2,004,057	156,529	1,887,824	146,601	1,859,068	107,340	1,351,565
	(㎡)	637,899		565,036		542,892		404,813	

14. 統計資料

A－8 丹後産地生糸消費量推移（絹紡糸含む）



14. 統計資料

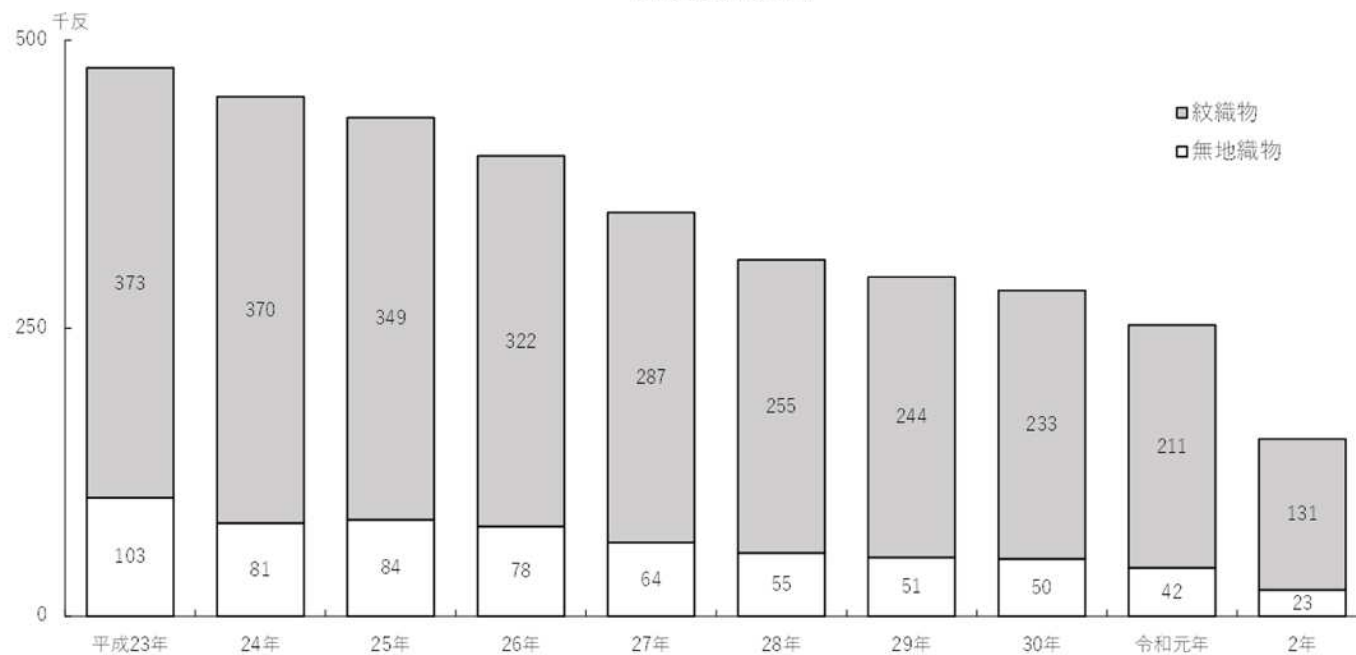
紋・無地別白生地織物生産数量

単位：千反

年	無地織物	紋織物
平成23年	103	373
24年	81	370
25年	84	349
26年	78	322
27年	64	287
28年	55	255
29年	51	244
30年	50	233
令和元年	42	211
2年	23	131

A－9 紋・無地別白生地織物生産数量

(1反13m換算)

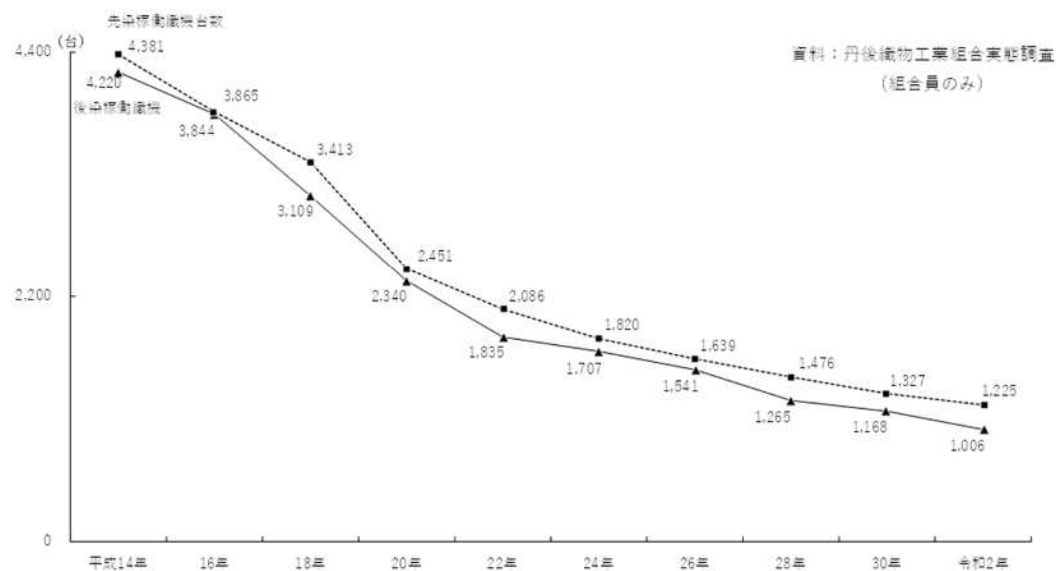


14. 統計資料

後先別稼働織機台数

	後染稼働織機台数	先染稼働織機台数
平成14年	4,220	4,381
16年	3,844	3,865
18年	3,109	3,413
20年	2,340	2,451
22年	1,835	2,086
24年	1,707	1,820
26年	1,541	1,639
28年	1,265	1,476
30年	1,168	1,327
令和2年	1,006	1,225

A-10 丹後機業後染・先染別稼働織機台数の推移



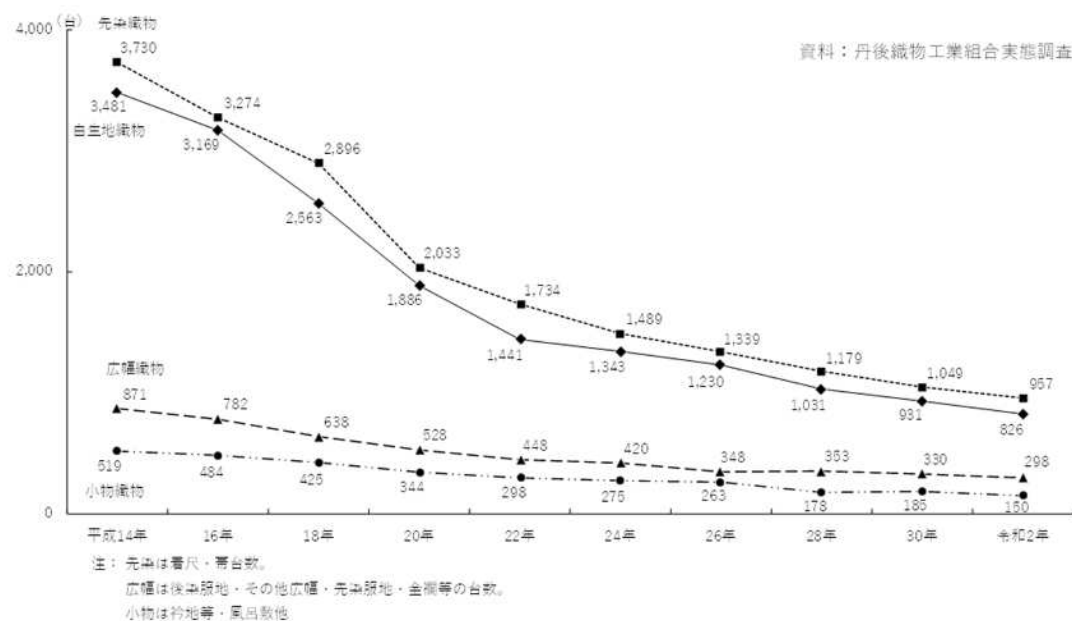
14. 統計資料

部門別稼働織機台数

	日生地織機	先染織機	広幅織機	小物織機	合計
平成14年	3481	3730	871	519	8601
16年	3169	3274	782	484	7709
18年	2563	2896	638	425	6522
20年	1886	2033	528	344	4791
22年	1441	1734	448	298	3921
24年	1343	1489	420	275	3527
26年	1230	1339	348	263	3180
28年	1031	1179	353	178	2741
30年	931	1049	330	185	2495
令和2年	826	957	298	150	2231

注：先染は着尺・帯台数。
 広幅は後染服地・その他広幅・先染服地・金襴等の台数
 小物は衿地等・風呂敷地

A-11 丹後機業部門別稼働織機台数の推移

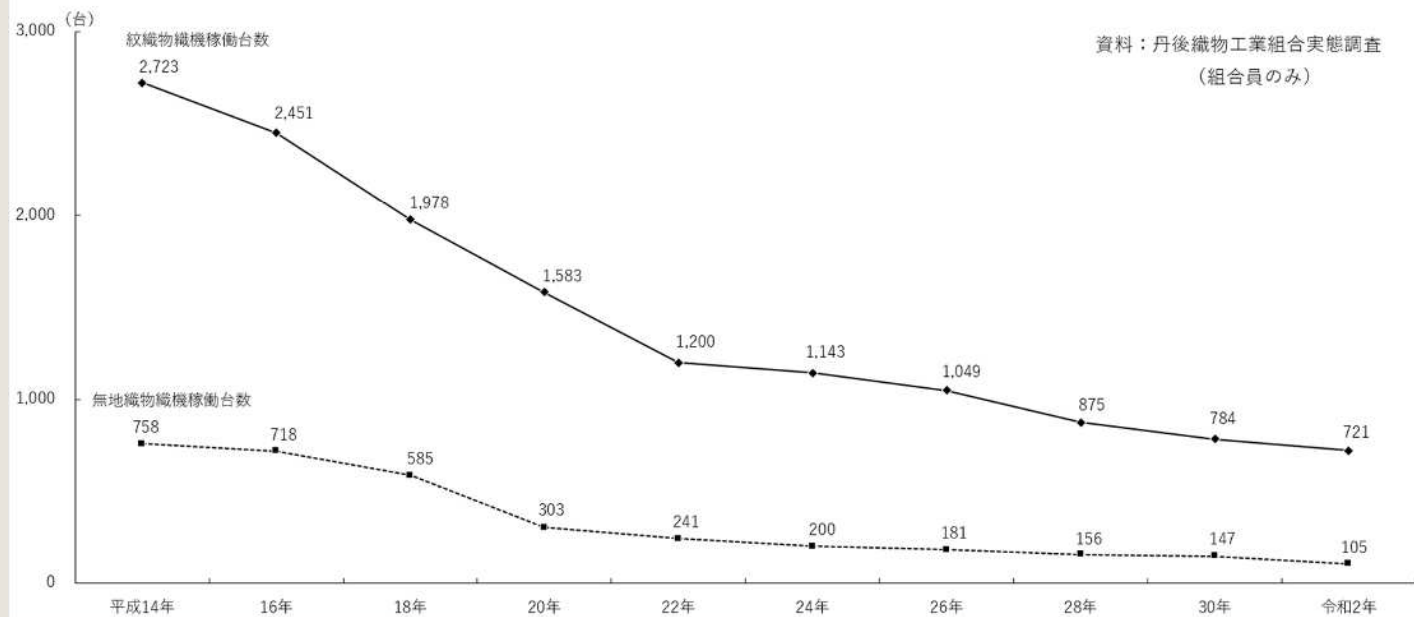


14. 統計資料

白生地稼働織機台数

年	紋織物織機稼働台数	無地織物織機稼働台数
平成14年	2,723	758
16年	2,451	718
18年	1,978	585
20年	1,583	303
22年	1,200	241
24年	1,143	200
26年	1,049	181
28年	875	156
30年	784	147
令和2年	721	105

A-12 白生地(紋・無地)稼働織機台数の推移

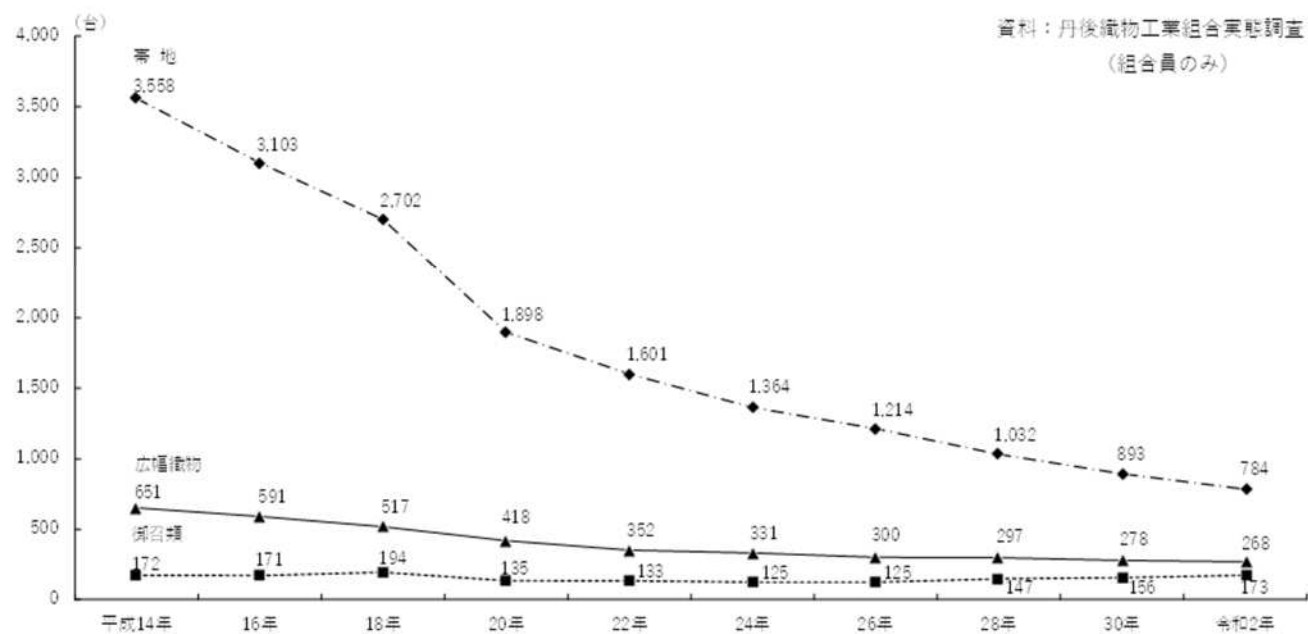


14. 統計資料

先染織物稼働織機台数

年	帯地	御召類	広幅織物
平成14	3,558	172	651
16年	3,103	171	591
18年	2,702	194	517
20年	1,898	135	418
22年	1,601	133	352
24年	1,364	125	331
26年	1,214	125	300
28年	1,032	147	297
30年	893	156	278
令和2	784	173	268

A-13 先染織物品種別稼働織機台数



14. 統計資料

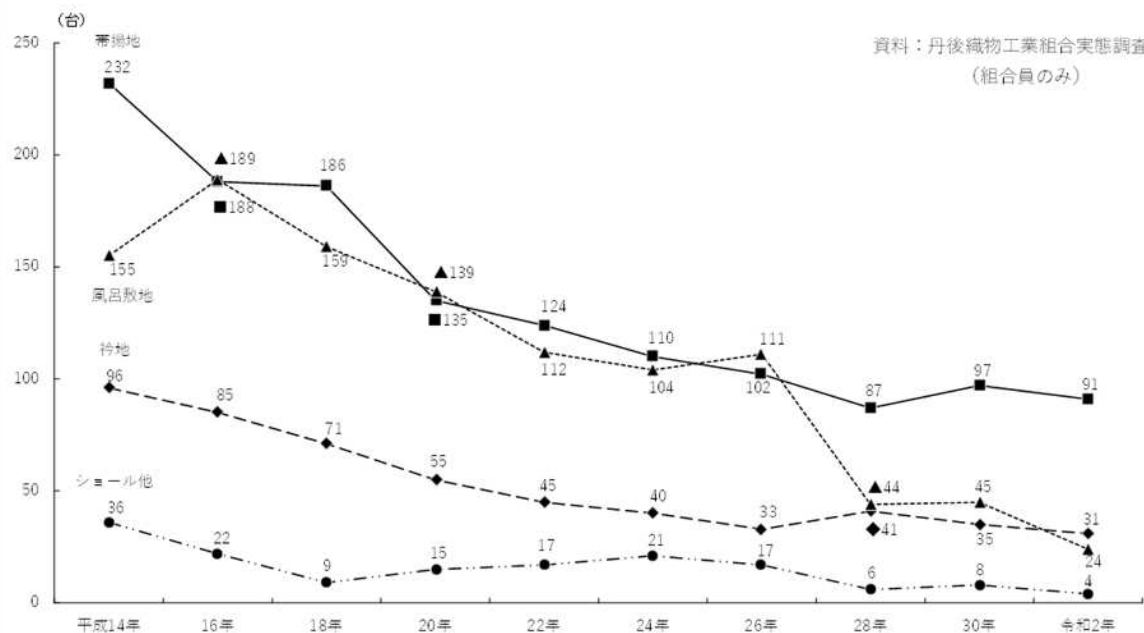
小物織機台数の推移

年	袴地・帯揚げ地	風呂敷地
14	328	155
16	273	189
18	257	159
20	190	139
22	168	112
24	150	104
26	135	111
28	128	44
30	132	45
R2	122	24

小物織物稼働織機台数の推移

年	袴地	帯揚げ	風呂敷	ショール他
平成14年	96	232	155	36
16年	85	188	189	22
18年	71	186	159	9
20年	55	135	139	15
22年	45	124	112	17
24年	40	110	104	21
26年	33	102	111	17
28年	41	87	44	6
30年	35	97	45	8
令和2年	31	91	24	4

A-14 小物織物稼働織機台数の推移



14. 統計資料

A－15 市町別事業所数・稼働織機台数

令和2年9月末調査

後・先併用 事業所	後染事業所	先染事業所	市 町 別	事業所数 台 数	先染台数	後染台数
11	76	89	与 謝 野 町	176軒 687台	272	415
5	17	19	加 悦 地 区	41軒 205台	70	135
4	22	60	野田川地区	86軒 303台	177	126
2	37	10	岩 滝 地 区	49軒 179台	25	154
	2	3	宮 津 市	5軒 10台	5	5
		4	伊 根 町	4軒 3台	3	
7	72	362	京 丹 後 市	441軒 1,530台	944	586
2	17	54	大 宮 町	73軒 241台	164	77
	6	28	峰 山 町	34軒 115台	60	55
3	10	23	弥 栄 町	36軒 147台	73	74
	4	57	丹 後 町	61軒 136台	109	27
2	35	158	網 野 町	195軒 804台	451	353
		42	久美浜町	42軒 87台	87	
		1	舞 鶴 市	1軒 1台	1	
18	150	459	合 計	627軒 2,231台	1,225	1,006

注：員外事業所及び休業・その他事業所、休止織機は除く。

14. 統計資料

A - 1 6 町別・後先男女別従業者数

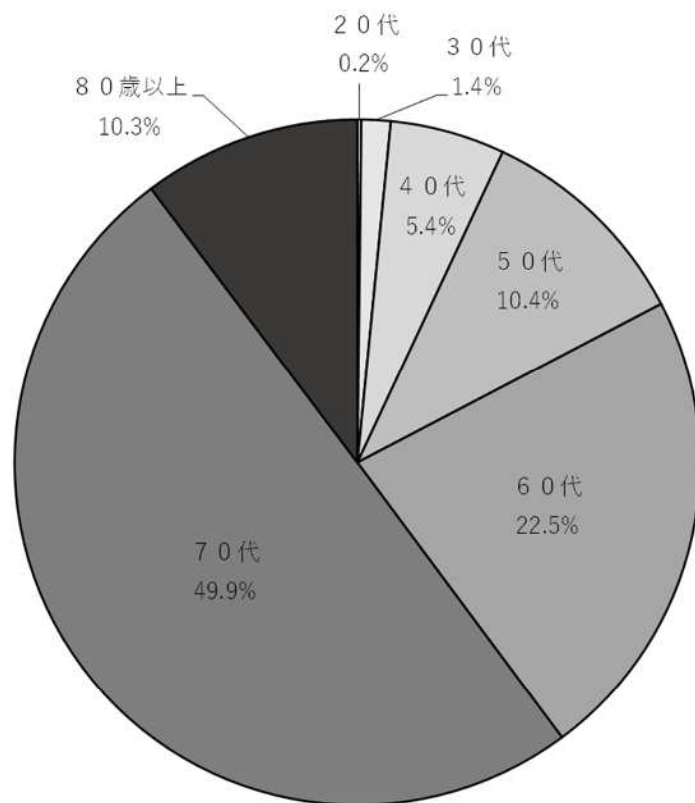
市町名	従業者	後 染		先 染		小計	後 染（雇用）			先 染（雇用）			小計	合計
		男	女	男	女		男	女	パート	男	女	パート		
	加悦地区	24	20	20	15	79	11	21	6	1	2		41	120
	野田川地区	30	26	59	49	164	11	20	5	10	17	3	66	230
	岩滝地区	44	40	7	9	100	13	27	19	2	1		62	162
	与謝野町	98	86	86	73	343	35	68	30	13	20	3	169	512
	宮津市	2		2	2	6								6
	伊根町				4	4								4
	大宮町	15	18	44	47	124				6	21	5	32	156
	峰山町	6	3	20	22	51	12	11			1	1	25	76
	弥栄町	10	13	13	21	57		2		1	2		5	62
	丹後町	4	3	33	48	88	3	6	3	5	3	2	22	110
	網野地区	34	38	89	83	244	14	36	10	4	11	5	80	324
	浜詰地区	1	2	53	51	107					5	2	7	114
	網野町	35	40	142	134	351	14	36	10	4	16	7	87	438
	久美浜町			33	32	65								65
	京丹後市	70	77	285	304	736	29	55	13	16	43	15	171	907
	舞鶴市				1	1								1
	合 計	170	163	373	384	1,090	64	123	43	29	63	18	340	1,430

※その他事業所は除く。

令和2年9月実態調査

14. 統計資料

A-17 町別・年代別従事者数(雇用含まず)



年代		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計	構成比
市町名	加悦地区		2	7	8	16	38	8	79	7.2%
	野田川地区		6	12	9	37	86	14	164	15.0%
	岩滝地区		4	8	20	14	41	13	100	9.2%
与謝野町			12	27	37	67	165	35	343	31.5%
宮津市					1	3	2		6	0.6%
伊根町							4		4	0.4%
市町名	大宮町	1		9	13	24	65	12	124	11.4%
	峰山町				3	8	37	3	51	4.7%
	弥栄町			2	3	19	24	9	57	5.2%
	丹後町			4	13	19	43	9	88	8.1%
	網野地区	1	3	15	23	67	116	19	244	22.4%
	浜詰地区			2	15	27	51	12	107	9.8%
	網野町	1	3	17	38	94	167	31	351	32.2%
	久美浜町				5	10	37	13	65	6.0%
	京丹後市	2	3	32	75	174	373	77	736	67.5%
	舞鶴市					1			1	0.1%
合計		2	15	59	113	245	544	112	1,090	100.0%
年代別比率		0.2%	1.4%	5.4%	10.4%	22.5%	49.9%	10.3%	100.0%	